

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-本 01	広報部 地球ひろば推進課	2	国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート
2402-本 02	中南米部 中米・カリブ課	1	中米・カリブ地域における協力の整理と今後の方向性の検討、中米・カリブ地域のJGA取り組み促進に向けたセクター情報の整理
2402-本 03	アフリカ部 アフリカ第二課	1	アフリカ対象国（エチオピア、ジブチ、ウガンダ、タンザニアなどを想定）JCAP策定、内外関係者とのディスカッション業務補佐
2402-本 04	民間連携事業部 計画・連携企画課	1	JICA民間連携事業部での就業体験：「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報業務
2402-本 05	ガバナンス・平和構築部 計画・課題戦略推進課	1	課題別研修を中心とする研修事業の成果発現・拡大に有効なフォローアップ等の取り組み事例の分類・分析支援
2402-本 06	人間開発部 保健第二グループ保健第四チーム	1	高齢社会対策
2402-本 07	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第一チーム	1	農業・農村開発協力におけるフードバリューチェーンに関する情報収集、整理及び分析
2402-本 08	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第三チーム	1	小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）
2402-本 09	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第五チーム	2	栄養改善・農業開発分野の国際協力（特にアフリカ）
2402-本 10	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第五チーム	1	食生活の見える化アプリの開発およびチーム内DX
2402-本 11	社会基盤部 運輸交通グループ第一チーム	1	道路交通安全に係るJICAと国際機関及び国内関係機関との連携に係る調査研究
2402-本 12	社会基盤部 資源・エネルギーグループ第一チーム	若干名	カーボンニュートラルに向けたエネルギートランジションに関する調査研究
2402-本 13	社会基盤部 資源・エネルギーグループ第二チーム	若干名	持続的な鉱物資源開発に関する調査研究
2402-本 14	社会基盤部 都市・地域開発グループ第三チーム	1	地形図及び地理空間情報分野におけるJICA協力の分析と今後の方向性の提案
2402-本 15	地球環境部 防災グループ	1	防災分野人材・知見の体系化
2402-本 16	国内事業部 市民参加推進課	1	JICAの国内事業について学び、JICAが日本国内で活動する意義を理解し、事業広報のための情報収集・分析・発信を行う。
2402-本 17	国際協力調達部 計画・調達戦略課	1	「調達」を切り口に、統計情報やデータの利活用、デジタルを活用した業務改善等の視点から国際協力業界を学ぼう！
2402-本 18	国際協力調達部 調達支援課	1	JICAのロジスティックスについて学んで、国際協力人材としての競争力を高めよう！国際協力事業に将来携わりたい人必見。
2402-本 19	国際協力調達部 渡航推進課	1	「海外出張手配」のカイゼン ～実データを用いた現状分析と旅費削減・業務効率化を目指した提案づくり～
2402-本 20	緒方貞子平和開発研究所 企画課	1	緒方貞子平和開発研究所の広報活動

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 国内機関ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-国 01	北海道センター 道東業務課	3	国際協力を通じた地方創生・SDGsへの貢献 ～多文化共生・開発教育・研修・広報を通じて～
2402-国 02	筑波センター 総務課	2～4	国内センター理解：国際協力キャリア形成のきっかけ作りのために
2402-国 03	筑波センター 研修業務課	1～2	課題別研修「天水稻栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう
2402-国 04	筑波センター 研修業務課	1～2	課題別研修「アフリカ地域 市場志向型農業振興（普及員）」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう
2402-国 05	東京センター 市民参加協力第二課	2	JICA東京における市民参加協力事業の分析と発信及び業務補佐
2402-国 06	北陸センター 業務課	2～3	北陸3県におけるJICA北陸と地域との共創促進
2402-国 07	関西センター	7	関西における国内事業全般（総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属）
2402-国 08	九州センター 企業連携課	1	JICA九州センターでの中小企業・SDGsビジネス支援事業に関連する情報収集、広報ツールの作成

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 在外ポスト一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-在 01	中華人民共和国事務所	2	中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析業務補佐
2402-在 02	エクアドル事務所	1	エクアドル事務所のブランディング強化、研修業務の補佐
2402-在 03	タンザニア事務所	1	タンザニアにおける稲作振興協力 –JICAの技術協力の現場から–
2402-在 04	タンザニア事務所	1	タンザニアにおけるワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて –JICAの科学技術協力の現場から–
2402-在 05	コートジボワール事務所	1	養殖魚バリューチェーン開発を通じた内水面養殖再興計画プロジェクト（PREPIC02）のデータ分析業務補佐
2402-在 06	コートジボワール事務所	1	国産米振興プロジェクトフェーズ2（PRORIL2）のデータ分析業務補佐
2402-在 07	セネガル事務所	1	セネガル事務所保健セクター事業運営補佐
2402-在 08	ボツワナ支所	1	JICAボツワナ支所における技術協力事業の実施支援
2402-在 09	エジプト事務所	1	ユニバーサルヘルスカバレッジ達成のためのエジプト向け保健分野協力の業務補佐

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 開発コンサルティング企業ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-開コ 01	(株)アルメック	2	海外における都市交通、都市・地域開発に関するコンサルタント業務の補佐一般
2402-開コ 02	(株)アルメック	1	カンボジア国幹線道路における交通安全改善プロジェクト

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-本 01	広報部 地球ひろば推進課	2	国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート
2402-本 02	中南米部 中米・カリブ課	1	中米・カリブ地域における協力の整理と今後の方向性の検討、中米・カリブ地域のJGA取り組み促進に向けたセクター情報の整理
2402-本 03	アフリカ部 アフリカ第二課	1	アフリカ対象国（エチオピア、ジブチ、ウガンダ、タンザニアなどを想定）JCAP策定、内外関係者とのディスカッション業務補佐
2402-本 04	民間連携事業部 計画・連携企画課	1	JICA民間連携事業部での就業体験：「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報業務
2402-本 05	ガバナンス・平和構築部 計画・課題戦略推進課	1	課題別研修を中心とする研修事業の成果発現・拡大に有効なフォローアップ等の取り組み事例の分類・分析支援
2402-本 06	人間開発部 保健第二グループ保健第四チーム	1	高齢社会対策
2402-本 07	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第一チーム	1	農業・農村開発協力におけるフードバリューチェーンに関する情報収集、整理及び分析
2402-本 08	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第三チーム	1	小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）
2402-本 09	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第五チーム	2	栄養改善・農業開発分野の国際協力（特にアフリカ）
2402-本 10	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第五チーム	1	食生活の見える化アプリの開発およびチーム内DX
2402-本 11	社会基盤部 運輸交通グループ第一チーム	1	道路交通安全に係るJICAと国際機関及び国内関係機関との連携に係る調査研究
2402-本 12	社会基盤部 資源・エネルギーグループ第一チーム	若干名	カーボンニュートラルに向けたエネルギートランジションに関する調査研究
2402-本 13	社会基盤部 資源・エネルギーグループ第二チーム	若干名	持続的な鉱物資源開発に関する調査研究
2402-本 14	社会基盤部 都市・地域開発グループ第三チーム	1	地形図及び地理空間情報分野におけるJICA協力の分析と今後の方向性の提案
2402-本 15	地球環境部 防災グループ	1	防災分野人材・知見の体系化
2402-本 16	国内事業部 市民参加推進課	1	JICAの国内事業について学び、JICAが日本国内で活動する意義を理解し、事業広報のための情報収集・分析・発信を行う。
2402-本 17	国際協力調達部 計画・調達戦略課	1	「調達」を切り口に、統計情報やデータの利活用、デジタルを活用した業務改善等の視点から国際協力業界を学ぼう！
2402-本 18	国際協力調達部 調達支援課	1	JICAのロジスティックスについて学んで、国際協力人材としての競争力を高めよう！国際協力事業に将来携わりたい人必見。
2402-本 19	国際協力調達部 渡航推進課	1	「海外出張手配」のカイゼン ～実データを用いた現状分析と旅費削減・業務効率化を目指した提案づくり～
2402-本 20	緒方貞子平和開発研究所 企画課	1	緒方貞子平和開発研究所の広報活動

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本01
■部署名:	広報部	■募集人数(人)	2
■課名:	地球ひろば推進課		
■テーマ 国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート			
■テーマの概要 地球ひろば推進課では、これまでJICAが培ってきた国際協力の知識を活かしながら、日本を拠点に日本と開発途上国が抱える様々な課題がどのような繋がりを持っているのか理解し、課題解決への思考を養うべく「国際理解教育/開発教育支援事業」を通して学びの場を提供しています。具体的には、教育委員会、教員、児童生徒など多様な階層の方々を対象に、JICA国内拠点と協働しながら、SDGsの取組、多文化共生、キャリア教育、社会に開かれた教育など学校現場の課題に貢献すべく、次の事業を行っています。 ・教員・教育委員会向け研修プログラムの実施・取りまとめ ・中高生向け国際協力エッセイコンテストの実施 ・学校教育向け教材(映像教材含む)の開発・活用促進 ・JICA地球ひろばでの展示の企画・運営、イベント・セミナーの開催 ・若年層へ向けた国際理解の一步としてのインスタグラムの運営等 ・国際協力出前講座の実施・取りまとめ インターン生には、上記開発教育支援事業に参加し、地球ひろば展示やイベント及び開発教育教材に関する検討・提案・実施する業務を中心に、その他関連業務のサポートも含め担当いただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ●Instagramの運用 当課で所有するInstagramアカウントにおける投稿コンテンツの考案及び広報部以外のインターン生のInstagram有志メンバーの取りまとめを行って頂きます。 ●JICA地球ひろば展示企画のPR JICA地球ひろばの効果的な集客・PR活動を行っていただきます。 ●開発教育に関する各種イベントの運営補佐、広報 教員向け研修、エッセイコンテスト表彰式、国際協力出前講座、オンラインを含む各種イベント・セミナー等の運営補佐をしていただきます。写真・動画撮影、取材、編集の上、効果的な広報の検討・提案・実施をお願いします。また各種イベントの内容に関する記事を作成いただきます。現時点で想定しているイベントは以下の通りですが、このほかにもJICAが関連するイベントについて臨機応変に対応頂きます。 ●開発教育庶務 開発教育教材や資料整理等、庶務を含む開発教育支援事業サポート及びその他広報活動をお願いします。			
■参考情報 ・JICA地球ひろばHP https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html ・JICA地球ひろば展示 https://www.jica.go.jp/hiroba/information/exhibition/index.html ・JICA地球ひろばInstagramアカウント https://www.instagram.com/jica_gp/ ・JICA開発教育教材 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/index.html ・国際理解教育/開発教育指導者研修 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/seminar/recruit.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3回、3ヶ月間
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	日本国内の教育現場における国際理解教育や多文化共生に対する関心		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・活動内容の性質上、受入期間はフルタイムではなく、週3日×3か月間を想定していますが、相談可能です。 ・東京近郊の学校訪問等の可能性があります。(日帰り。交通費は当課所有のSUICA貸出、負担します。) ・勤務日・勤務時間は可能な限り各種イベントの開催日に勤務できるように調整していただけるとありがたいです。なお、イベントは土日祝日や夜の時間帯が含まれる場合もあります。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本02
■部署名:	中南米部	■募集人数(人)	1
■課名:	中米・カリブ課		
■テーマ 中米・カリブ地域における協力の整理と今後の方向性の検討、中米・カリブ地域のJGA取り組み促進に向けたセクター情報の整理			
■テーマの概要 中米・カリブ地域における過去の協力を地域及びテーマで整理し、過去のアセットを活用した新規協力につなげる。また、中米・カリブ地域で実施する事業のサポートを通じて国際協力についての理解を深めるとともにこれらをJICA内外に発信し広報力の強化に貢献する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 中米・カリブ地域を中心としたJICA事業の理解促進（ブリーフィング、会議参加等） 2. 過去の協力に係る情報収集と整理（中米・カリブ課メンターとの協働） 3. 中米・カリブ地域事業における広報の支援 4. キャリアプラン形成に向けたオリエンテーション及びリソースパーソンとの面談の実施 5. 会議、外勤等を通じた外部ステークホルダーとの協議への参加 6. 関連テーマに関するプレゼンテーションの実践（2回程度）			
■参考情報 2025年は中米諸国と外交関係90周年や大阪万博が予定されており積極的に広報活動に取り組みたい。広報イベントなどへの支援を期待する。			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA国内機関への訪問、在京大使館との会議への同行など			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3回程度の勤務
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	スペイン語能力		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本03
■部署名:	アフリカ部	■募集人数(人)	1
■課名:	アフリカ第二課		
■テーマ アフリカ対象国(エチオピア、ジブチ、ウガンダ、タンザニアなどを想定) JCAP策定、内外関係者とのディスカッション業務補佐			
■テーマの概要 JICAでは途上国に対する協力を効果的に実施していくにあたり、対象国の開発の現状などを整理・分析し、協力の実施に関する考え方や方向性を論理的に示すためにJICA Country Analysis Paper (JCAP) を策定しています。机上調査や、関係部署・事務所へのヒアリング等を通じて、当該国の開発の現状及び課題を把握・分析し(根拠に基づいた定量・定性的な情報の分析)、開発援助機関としての経験・教訓の整理・評価を行います。そして上記のような活動を通じて、当該対象国やJICA事業への理解を深め、課題解決に向けた効果的なアプローチ(協カリソースを効率的かつ効果的に活用するための選択と集中を推進し、戦略的な事業形成の観点から技術協力、有償資金協力及び無償資金協力等を柔軟かつ有機的に組み合わせたプログラム・アプローチ)を一緒に見つけましょう!			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・当該国の現状についての机上調査(JICA図書館、世銀HP等から各指標の入手など) ・関係部署/事務所へのヒアリング、入手した情報の取り纏め・分析 ・JICAアフリカ部・事務所等で検討中の内容(JCAP及び協力アプローチ案)に係る内容確認・整理、アイデアのインプット。 ・関係部署/事務所、外部関係者とのディスカッションを通じた内容の更新。 ・JCAP案としての取りまとめ、公開準備			
■参考情報 ナイジェリアJCAP https://www.jica.go.jp/Resource/nigeria/ku57pq0000046gk8-att/jcap.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの2~3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2回程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本04
■部署名:	民間連携事業部	■募集人数(人)	1
■課名:	計画・連携企画課		
■テーマ JICA民間連携事業部での就業体験:「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報業務			
■テーマの概要 日本の民間企業は、様々な分野で優れた製品・技術・サービスを有しており、開発途上国の社会的・経済的課題の解決に貢献する可能性を持っています。JICA民間連携事業部では「中小企業・SDGsビジネス支援事業」(※1:参考情報欄のリンクをご確認ください)を通じて、企業の開発途上国におけるビジネスづくりを支援しており、今後、更にこうしたビジネスの成功例を積み上げ、拡大していきたいと考えています。 このインターンシップでは、より多くの企業に「中小企業・SDGsビジネス支援事業」をご活用頂くため、本事業を活用した企業の成功事例について、JICAウェブサイトに掲載する広報記事作成を行って頂きます。インタビューを通じて企業の想いに触れながら、ビジネスによる開発課題の解決について理解を深めて頂ければと考えています。また、その他の企業連携に関連する業務の中から、インターン生の興味・ご関心に応じて、活動を追加いただくことも可能です。 「民間連携」、「価値共創」、「SDGsへの貢献」などに関心を持つ方からのご応募を歓迎致します。			
kata 下記のうち(1)の活動を必須とし、それ以外の活動は参加者のご関心に応じて適宜選択して頂くことを想定しています。 (1)「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についてのグッドプラクティス記事作成:本事業に参画頂いた企業の成功事例を掲載するページ(※2)の記事作成を企業取材しつつ行う。その他に民間連携事業Facebook運営、メディア取材対応、メールマガジン発行、セミナー開催等の広報業務の補助を行う。 (2)「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての好事例リストの取りまとめ:ビジネス化の成功事例や、ジェンダー、防災、外国人材環流等の観点からの好事例を抽出・リスト化する。 (3)民間連携事業部の内部広報素材作成:各課業務の内容や魅力について、JICA内向け広報(形式自由)を作成する。 (4)他機関との連携業務補佐:他機関との連携関連の打ち合わせに同席し、準備や議事録作成を行う。			
■参考情報 (※1) 中小企業・SDGsビジネス支援事業: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/activities/index.html (※2) グッドプラクティス: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/case/release/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの間で2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2~3回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本05
■部署名:	ガバナンス・平和構築部	■募集人数(人)	1
■課名:	計画・課題戦略推進課		
■テーマ 課題別研修を中心とする研修事業の成果発現・拡大に有効なフォローアップ等の取り組み事例の分類・分析支援			
■テーマの概要 ・ JICAは開発途上国の社会経済開発を担う組織・人材を対象に、様々な分野の研修を各種形態で実施しており、年間8千人以上を本邦に受け入れている。 ・ このうち課題別研修は、JICAグローバル・アジェンダ（JGA:開発途上国の課題に取り組む20の事業戦略）の下、国横断的に求められる人材育成のテーマを選択し、年間350コース（2024年度）を実施する代表的な研修の1つである。各コースに複数国の代表が研修員として参加し、日本の知識・技術・経験から学びを得つつ、各国の現状との比較を含め、研修員間や日本側とアイデアを共創する。その成果を帰国後に活用するためのアクション・プラン作成がコースの1つの区切りであるが、帰国後の実行にはハードルもあり、成果発現に向けたフォローアップのあり方について、長年の課題となっている。 ・ フォローアップの実施主体はJICAの在外拠点・国内拠点、各国の研修員同窓会（JICAが支援）等に分かれる。これまでに収集している各取り組み事例等の分類・分析を通し、効果的な実施のあり方・制度改善への提案につなげることを狙いとする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ 当部のアソシエイト専門員（研修）が中心となり進める上記テーマの分類・分析及び取りまとめの支援。具体的に以下の内容を想定。 ・ 在外拠点及び国内拠点からすでに収集済みのフォローアップ活動、同窓会活動及び研修コース中の実施後を見据えた取り組みなどの事例の分類と、アウトカムが確認できるものなどモデル事例の抽出。 ・ 不足する情報について、関係者への追加調査（ヒアリング、メール等による情報収集） ・ JICA内関係者とのディスカッション 他			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/summary.html https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターン期間中に実施する研修コースの視察、国内拠点（研修コース実施現場）視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 1~2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2回2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	社会調査等の経験・知識		
望ましい	人材ネットワーキング、コミュニティ活性化に関わった経験		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）:			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本06
■部署名:	人間開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	保健第二グループ保健第四チーム		
■テーマ 高齢社会対策			
■テーマの概要 高齢社会対策分野は、医療保障も含めた保健医療分野のみならず、年金制度等の社会保障制度や、その背景となる国家財政、高齢者の増加を念頭とした都市づくり等、セクター横断的な対応が求められる。アジアや中南米地域を中心に開発途上国においても多くの国で急速に高齢化が進展することが見込まれている。日本は、高齢社会対策において課題先進国である。JICAは、日本の経験も踏まえ、途上国の制度整備やコミュニティにおける高齢者支援の仕組みづくりと運用に取り組んでいる。また、日本国内での少子高齢化の進展に伴う労働力不足、とりわけ高齢者の介護人材不足の見込みを踏まえて、日本における外国人介護人材の受け入れ事業と、これらの人材が自国(途上国)に帰国した後の活躍について、JICA 事業を通じた貢献を検討している。			
■具体的なインターンシップ活動内容 保健第四チーム主管業務の就業体験。具体的には以下のとおり。 ・高齢社会対策に関連する国際協力の現場で必要となる知識やスキルの向上を目的とした日本人向けの短期研修「能力強化研修」の実施準備作業体験(参加者への各種案内、JICA内関係者との連絡調整。資料等作成支援。) ・同研修期間中の実施・運営体験(3月10-14日の研修期間是对面必須。会場設営準備、参加者・機構内関係者・講師との連絡調整、グループワーク支援)。 ・そのほか、JICAの高齢社会対策分野での協力案件や関連するパートナーとの連携活動に関する業務体験。			
■参考情報 グローバルアジェンダ(保健医療): https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/health/ku57pq00002cy8ad-att/health_text.pdf 事例紹介(高齢社会対策): https://www.jica.go.jp/activities/issues/health/case.html 能力強化研修について: https://www.jica.go.jp/about/recruit/kyokakenshu/top.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 能力強化研修「高齢社会対策」 高齢社会対策サブネットワーク活動への参加(会議、勉強会など) 高齢社会対策分野の技術協力プロジェクトに関連して東京で実施される活動への参加			
■受入時期・期間			
2025年1月中旬から3月中旬までの 2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由: 3月10-14日が能力強化研修のためこの期間は必須ですが、開始時期や出勤回数は調整可能です。	可	週2-3回。ただし出勤日はご自身のご都合ではなく、研修準備作業(打合せ実施日等)にあわせていただく必要あり
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本07
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第一チーム		
■テーマ			
農業・農村開発協力におけるフードバリューチェーンに関する情報収集、整理及び分析			
■テーマの概要			
<p>現在、貧困・飢餓人口の約80%が農村部で生活、貧困層の63%が農業に従事し、その数は全世界で5億人にも上ります。開発途上国の農業従事者の多くは市場ニーズに基づいた営農が実践できておらず、農産物の買い取り価格が低く貧困から抜け出せないという問題を抱えています。これらの課題解決に向けて、食を基軸とする生産から加工、流通、消費に至る各段階において付加価値を創出してつなぐことが重要になると考えられています。</p> <p>現在、JICAでは農村部住民の生計向上及び安定した食料の供給を目標に包括的且つ持続可能なフードバリューチェーン（FVC）の構築に取り組んでいます。</p> <p>本インターンシップ・プログラムでは、これまでの農業・農村開発分野、特にフードバリューチェーンに関連する事業をレビューするとともに、現在実施中の事業の推進に協力いただくことを予定しています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成等を担当いただくこととなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> JICAの農業・農村開発分野、特にフードバリューチェーンに関連する事業の実績取りまとめ、課題や教訓分析、結果の発信 他ドナーが実施するフードバリューチェーンに関連した事業の実績取りまとめと分析 			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> JICAグローバル・アジェンダ（農業・農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html 【農業・農村開発】バリューチェーンの変化に対応した農業支援のあり方 https://www.youtube.com/watch?v=4t0yl7XBQ_0 			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
農業・農村開発分野の各種会議や課題別研修へのオブザーバー参加、各種勉強会、在外事務所や専門家へのヒアリング調査（オンラインを想定）			
■受入時期・期間			
2025年1月中旬から3月中旬までの間で 1ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2回、2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint等）の基本操作		
望ましい	英語の論文や報告書等を読むのに支障がないレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
・インターンシップ・プログラムの活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助活動も含む可能性があります。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本08
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第三チーム		
■テーマ			
小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）			
■テーマの概要			
<p>JICAは、農作物を「作ってから売り先を探す → 売れるものを作る」へと農家の行動変容を促し、ビジネスとしての儲かる農業の実践を促進する「SHEPアプローチ」を活用した農業普及事業をアフリカ、アジア、中南米、中東の各地域で実施し、併せてその普及を担うSHEP人材の育成を進めています。また、同アプローチを他ドナー、民間企業等の幅広いアクターに活用してもらうために、効果の検証と発信、事業の実践を通じて得られる知見・教訓の蓄積と共有等のナレッジマネジメントに取り組んでいます。2019年に開催されたTICAD7において、SHEPアプローチを活用した農業普及を少なくとも100万人の小規模農家に届け、より良い暮らしの実現を目指す「SHEP100万人宣言」をアフリカ各国関係者、国際農業開発基金（IFAD）、民間企業関係者と共に表明しました。以降、SHEPの着実な実施とSHEP広域展開のための様々な活動を進めています。2024年度下半期には、パートナー国の行政官を対象にした課題別研修やSHEP関連プロジェクトの専門家を一堂に集めたSHEP専門家情報共有勉強会等を企画しています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップ・プログラムでは、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成・セミナーの準備等を実施いただくこととなります。現在想定している内容は以下の通りとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SHEP課題別研修の実施支援 ・SHEP専門家情報共有・勉強会の実施支援 ・国際ワークショップ運営補佐 ・SHEP活用案件の分析 ・SHEPアプローチの広報に係るレビュー・提案、HPの更新、リーフレット作成など 			
■参考情報			
<p>・JICA HP「SHEP（市場志向型農業振興）アプローチ」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/shep/index.html</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
SHEP課題別研修（国内出張の可能性あり）、SHEP専門家情報・共有勉強会			
■受入時期・期間			
2025年2月から3月までの 1ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3回、2ヶ月間/週間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農学または農業経済学に関する分野を専攻する者		
望ましい	開発学に関する分野を専攻する者		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・本インターンシップを通して、農業普及分野の国際協力に関する知見を深める経験を得られます。 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助も含む可能性があります。 			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本09
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	2
■課名:	農業・農村開発第二グループ第五チーム		
■テーマ 栄養改善・農業開発分野の国際協力(特にアフリカ)			
■テーマの概要 アフリカでは5歳未満児の年間死亡者のうち45%が低栄養に起因していると言われる。2021年12月の東京栄養サミットなど国際場で栄養改善を推進するモメンタムが高まっている。JICAもその機会に「JICA栄養宣言」を発表し、改めてコミットメントを表明している。JICAは、2016年のTICAD VIにおいて「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ(Initiative for Food and Nutrition Security in Africa: IFNA)」を立ち上げた。IFNAは、2025年までの10年間で、アフリカの国々において栄養改善の戦略の策定や既存の分野の垣根を越えた栄養改善実践活動の促進、普及などに取り組むこととしている。JICAは、IFNAの運営支援と栄養分野の協力を戦略的に展開している。 本ポストは、IFNAや食と栄養の協力を主導する第5チームにおいて、協力案件の全体管理の補佐、栄養改善のためのアプローチ開発に関する各種会合の企画・運営補佐、アプローチの整理などを行う。本人の希望や専門性もふまえ、農業開発(稲作、園芸、レジリエンス等)に関する活動も行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. JICA経済開発部の栄養改善協力の戦略的な展開のための業務補佐 ・ JICA経済開発部の栄養分野の既存の協力案件の状況、新規案件形成に向けた本部・事務所、IFNA事務局などの取り組み状況を更新する。 ・ 協力全体の戦略的な展開に向けた取り組み状況表や予算や投入管理のフォーマットの更新 ・ 協力全体のモニタリングと対応策の整理 ・ 他の援助機関の支援状況の取りまとめ ・ 特定課題の情報収集(栄養に配慮したアプローチ等) 2. 食と栄養分野の協力のためのアプローチの整理 ・ 同アプローチの開発・整理を担う「栄養サブタスク」会合や関連勉強会、JICA専門家との意見交換会の企画・運営 ・ 食生活を変えるための行動変容、栄養改善に向けた農業や保健、教育分野の政府機関の連携を高めるための方策などアプローチの整理 ・ 協力案件におけるアプローチの整理 ※食生活や営農・生活の改善に向けた動機付け、農業と保健など複数セクターの関係者の連携、各国の文脈での調整等 3. 関連補助業務(栄養分野の広報、イベントの準備補助、資料作成等) 4. 農業開発分野の業務の補助			
■参考情報 JICA Website(栄養改善): https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間 2025年1月から3月までの 1~3ヶ月間程度(2週間程度からの受入も可とする)			
上記期間内での調整可 理由:		フルタイム以外の活動体系の可否	可
			週2回、1.5ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	栄養学、農学、農業開発に関する分野を専攻、または興味と知識を有すること		
望ましい	将来のキャリアとして、食と栄養分野における国際協力に関心があること		
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 インターン場所はJICA本部経済開発部内を予定しています。勤務体系は柔軟に対応します。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本10
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	農業・農村開発第二グループ第五チーム		
■テーマ 食生活の見える化アプリの開発およびチーム内DX			
■テーマの概要 JICAでは、栄養改善に関する機構全体の取り組み(参考リンク1)の一環で、「食と栄養のアフリカイニシアティブ(IFNA)」(参考リンク2)という農業分野に着目した国際的なプラットフォームを支援し、食と栄養に関するアフリカ各国職員向けの研修やツールの開発、ツールを活用したパイロット事業、栄養の視点を入れた農業開発に関する国際的な啓発活動をしている。現在、IFNAの活動の中で生まれた食生活の見える化のためのモバイルアプリ(通称「NFAアプリ」または「IFNAアプリ」、参考リンク3)を本格開発している。同アプリは、9月末から12月末までのセネガルやガーナ、ザンビアなどでのフィールドテストを経て、年明けにアプリの修正を行った上で、上記数か国で本格リリースされる。その後、アフリカの他国に展開するために必要な準備(具体的には、各国の食品成分表や食品摂取ガイドラインの取り込みや、現地で入手できる作物の確認)を開始する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. NFAアプリに関連する業務補佐 (1) フィールドテストの結果をふまえたアプリの仕様修正業務 (2) 修正されたアプリの機能確認 (3) アプリの操作マニュアルの最終化 (4) アプリを用いた研修運営マニュアルの最終化 (5) 他国に展開するための準備作業のプロセスの整理・マニュアルの作成 2. 部内のDXに関する業務補佐 (1) 案件情報の集約・管理(Microsoft ListとPower BI)フローの見直し (2) その他、各案件の予算管理情報の集約の仕組み、調査準備支援の仕組み作り、決裁情報の分析の仕組み作り			
■参考情報 1. グローバルアジェンダ「栄養改善」(https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/index.html) 2. IFNA Website (https://ifna.africa/) 3. NFAアプリ/IFNAアプリ(https://youtu.be/OpNczU7BGho) ※41:44頃から説明			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由: 開発プロセスの業務のピークが、上記3カ月のどのタイミングになるか見えないため、着任可能なタイミングで具体的な業務を調整する。	可	週2-3回程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	コンピューターサイエンス(特にモバイルアプリ開発)に関する分野を専攻または知識を有すること		
望ましい	将来のキャリアとして、食と栄養分野における国際協力に関心があること		
望ましい	Power BI、Power Automate、Microsoft List、Teams、データベースに関する知識を有すること		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 本ポストの活動の中心は食生活の見える化に関するアプリの開発ですが、その活動を通じてアフリカの栄養改善や農業開発について学ぶ機会を得たい方々にご関心を持って頂きたいです。インターン場所はJICA本部経済開発部内を予定しています。勤務体系は柔軟に対応します。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本11
■部署名:	社会基盤部	■募集人数(人)	1
■課名:	運輸交通グループ第一チーム		
■テーマ 道路交通安全に係るJICAと国際機関及び国内関係機関との連携に係る調査研究			
■テーマの概要 経済成長に伴うモータリゼーションや運輸交通の道路インフラ整備が急速に進む中、道路交通事故が原因で死亡した人は世界で年間119万人(2021年)に達し、若年層世代(5~29歳)においては、道路交通事故が死因第1位となっている。SDGsゴール3.6では「2030年までに交通事故死傷者数を半減する」という目標を掲げており、JICAは運輸交通グローバルアジェンダ「すべての人々が安全かつ安心して移動できる社会の実現に貢献する」を立ち上げ、「道路交通安全」クラスターでは戦略的に交通事故死者数削減に取り組んでいる。具体的にはダッカ(バングラデシュ)、タイ、カンボジア、ウズベキスタンにおける支援に加え、国際交通安全学会(IATSS)が実施する研究部会への参加、外部有識者を委員に招いた課題別支援委員会開催などの取り組みを実施しており、今後、国際機関・他ドナー等との連携は道路交通安全プラットフォーム構築において重要な要素となっている。			
■具体的なインターンシップ活動内容 道路交通安全クラスターの取り組みの中で、今後、世界銀行やアジア開発銀行など国際機関や他ドナー、国内の自動車メーカーや学術団体等との連携を図りたいと考えている。そのため、今回のインターンシップでは以下の調査研究活動を行っていただく。 ①JICAの道路交通安全クラスターの取り組み状況及び方針の把握 ②国際機関や他ドナーが実施している道路交通安全に係る取組状況及び方針に係る情報収集 ③国内関係機関(民間企業、研究会、交通安全に関する協会など)が実施している道路交通安全に係る取組状況及び方針に係る情報収集 ④上記①~③を踏まえたうえで、JICAと国際機関及び国内関係機関との連携のあり方に係る提言 ⑤交通安全に関するデータ整理、分析			
■参考情報 ・JICA運輸交通グローバルアジェンダ(https://www.jica.go.jp/activities/issues/transport/index.html) ・IATSSイベント(https://www.iatss.or.jp/event/list.html)			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターン期間中に実施している道路交通安全クラスターの技術協力プロジェクト及び研修事業の会議、打合せ、視察など			
■受入時期・期間			
2025年2月から3月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	道路交通安全に関わる基礎知識		
望ましい	Excel、PowerPointに関する基礎的操作		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本12
■部署名:	社会基盤部	■募集人数(人)	若干名
■課名:	資源・エネルギーグループ第一チーム		
■テーマ カーボンニュートラルに向けたエネルギートランジションに関する調査研究			
■テーマの概要 社会基盤部の資源・エネルギーグループでは、「その国・地域の実情に寄り添った、カーボンニュートラルと安価なエネルギーの安定供給を両立させる」ことを目標とした取り組みを行っています。この目標に向け、JICAは国内外の様々なパートナーと共に、①エネルギートランジション政策・計画の策定・更新・実施と、②次世代脱炭素技術の開発・社会実装、③地域共同体内でのエネルギー安定供給への協力を注力しています。以下の情報を参考にし、インターンの方が自ら調査研究したいテーマを設定し、JICA職員がその活動を支援することを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 各自で設定したテーマに基づき、当部より必要な助言や文献紹介を行う予定です。また、執務場所を提供するとともに、各種の情報提供、JICA職員や専門家等へのヒアリング機会、関連する報告会やセミナーへの参加機会などを提供します。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/index.html#cluster https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/index.html https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/ku57pq00002cy7am-att/energy_minig.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの1~3か月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週1~2回
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	エネルギー政策や脱炭素技術に関する基本的な知識・関心		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本13
■部署名：	社会基盤部	■募集人数（人）	若干名
■課名：	資源・エネルギーグループ第二チーム		
■テーマ			
持続的な鉱物資源開発に関する調査研究			
■テーマの概要			
<p>社会基盤部の資源・エネルギーグループでは、「その国・地域の実情に寄り添った、カーボンニュートラルと安価なエネルギーの安定供給を両立させる」ことを目標とした取り組みを行っています。この目標に向け、JICAは国内外の様々なパートナーと共に、①エネルギーtransition政策・計画の策定・更新・実施と、②次世代脱炭素技術の開発・社会実装、③地域共同体内のエネルギー安定供給への協力及び④脱炭素社会に必要な鉱物資源の安定供給への協力に注力しています。本インターンシップでは特に④に関連する部分について、以下の情報を参考にし、インターンの方が自ら調査研究したいテーマを設定しJICA職員がその活動を支援することを予定しています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
各自で設定したテーマに基づき、当部より必要な助言や文献紹介を行う予定です。また、執務場所を提供するとともに、各種の情報提供、JICA職員や専門家等へのヒアリング機会、関連する報告会やセミナーへの参加機会などを提供します。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/index.html#cluster https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/index.html https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/ku57pq00002cy7am-att/energy_minig.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの1～3か月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週1～2回
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	鉱物資源のサプライチェーンに関する基本的な知識・関心		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本14
■部署名:	社会基盤部	■募集人数(人)	1
■課名:	都市・地域開発グループ第三チーム		
■テーマ 地形図及び地理空間情報分野におけるJICA協力の分析と今後の方向性の提案			
■テーマの概要 これまでJICAは、世界各国で地形図や地理空間情報の作成、整備、活用等に関する協力を実施しています。本ポストでは、これらテーマに関するこれまでのJICAの協力について整理・分析を行い、今後の方向性について提案を行っていただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・地形図及び地理空間情報分野におけるJICA協力の整理(地域、国、時系列等) ・上記JICA協力に関する協力内容や時系列的変化に関する分析 ・他開発機関による類似協力の事例収集 ・地形図及び地理空間情報分野におけるJICA協力の方向性に関する提案			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2025年1月から2月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2回、1ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	地形図や地理空間情報(GIS等)に関する知識又は経験		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本15
■部署名:	地球環境部	■募集人数(人)	1
■課名:	防災グループ		
■テーマ 防災分野人材・知見の体系化			
■テーマの概要 地球環境部防災グループでは、技術協力事業等を通じて途上国における防災の取り組みと防災人材の育成を支援しています。本ポストでは、JICAの防災分野における活動の知識を深めると同時に、過去の防災支援に関する知見と人材のネットワークをとりまとめる業務に携わりながら、より効果的・効率的なJICAの防災支援の環境づくりに貢献できます。防災人材に関しては、研修員・留学生、専門家や開発途上国防災機関職員、日本国内の関係機関・有識者等とのネットワークを構築・強化しています。また防災の知見の体系化においては、洪水、地震、気象等の防災支援分野において、インターン生の関心に応じて、優良事例のとりまとめ、協力効果の検証、その他知見の整理といった業務を期待しています。なお、JICA防災グループでは、防災インフラの整備と重要インフラの強靱化といった構造物対策を中心とした災害リスク削減に注力しており、土木・建築といった知見を持つ職員も多数活躍しています。このため、理系学部をはじめ多様なバックグラウンドの方の応募を歓迎します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 以下の中から、インターン生の関心の高いもの、専門性を考慮して所属部署と話し合った上で詳細な活動内容が決まります。 1. 防災人材のネットワーク構築 ・留学生ネットワークの運営・企画（留学生間のネットワーキングイベントの企画・実施、広報マテリアルの作成） ・防災分野の研修員、専門家、防災カウンターパート等の人材のリスト/データベース化。 ・防災人材のネットワーク体系の構想・試行的な取り組みの補助。 2. 知識の体系化 ・洪水、地震、気象といった分野において、特定の国における防災強化の事案を検証、とりまとめ。 ・防災グループ内で蓄積された情報の整理と応用・発信（広報）に係る補助的な作業。 3. その他、インターン生の課題意識から取り組みたい業務			
■参考情報 JICAの防災分野における取り組みについて https://www.jica.go.jp/activities/issues/disaster/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターン期間中に実施される研修員受入事業の講義・研修等(オンライン含)、技術協力プロジェクト等の先方機関との打ち合わせ・案件形成時の会議など。			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由:	可	週3回程度以上
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	防災分野の事業に関心を有すること。		
必須	研修員等とカジュアルなコミュニケーション可能なレベルの英語力。		
望ましい	MS Excelによる分析やオンライン会議運営に精通していること。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 本インターンシップでの活動時間中(9:30~17:45)に、インターン活動に専念できる健康状態、他活動との両立を自立的に行えることを条件とします。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本16
■部署名:	国内事業部	■募集人数(人)	1
■課名:	市民参加推進課		
■テーマ JICAの国内事業について学び、JICAが日本国内で活動する意義を理解し、事業広報のための情報収集・分析・発信を行う。			
■テーマの概要 多様化・高度化する開発途上国の開発課題の解決のためには、国際協力の専門知識を有する人材や、様々なパートナーとの連携が必要です。また、国際協力を継続的に実施するためには、一般の方々の国際協力への理解促進や、国際協力の経験を日本国内に還元し、日本の地域の課題解決や活性化に取り組むことも重要です。JICA国内事業部では、国内リソースによる国際協力に関連し、①技術研修員の受入、②留学生の受入・大学連携、③市民参加による国際協力、④外国人の受入支援に関連する業務を行っています。市民参加推進課では、③に関連し、NGO・自治体・大学等による国際協力実施の支援や寄附金事業の運営を行っています。 本インターンシップでは、国際協力を通じて日本の地域の活性化等に繋げ、Win-Winな事業を推進するため、開発途上国の課題解決に貢献できる日本の各地の人材・組織や技術・知恵の情報を収集して取り纏め、内外への発信やネットワーク形成に関連した取組を行います。本インターンシップを通じ、JICAの日本国内との関係やネットワーク、それら人材・組織との連携による開発課題解決や日本国内への還元取組を理解することができます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本ポストを通じて、以下の点を中心に、国内事業部の役割と機能に関する理解を深めていただきます。 ・ JICAの活動概要(特に国内拠点) ・ JICA国内拠点と本部の役割 ・ JICAの市民参加協力事業 ・ 国内における多様なパートナーの存在と連携の重要性 また、国内事業部職員の支援のもと、以下の活動を実施いただく予定です。 ・ 国際協力推進員の制度についての概要資料とりまとめ ・ 国際協力推進員の活動の好事例について、ヒアリングおよび情報発信素材づくり ・ JICAの寄附金事業と民間の寄附金事業との連携状況の情報収集、広報資料作成 ・ インターン結果およびJICAへの提言の取り纏め、発表			
■参考情報 JICA市民参加事業 https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/index.html 国際キャリア総合情報サイト https://partner.jica.go.jp/			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・ 国際協力推進員の活動現場、寄附金活用事業の現場視察 ・ 自治体やNGO等との連携協議会合への同席 ・ JICA職員が出席している大学、自治体等の見学、連携現場視察 ・ 国内拠点の活動(研修員受入事業、市民参加事業、多文化共生等)の視察、行事参加 例: 東京センター、横浜センター、筑波センター等			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの間で2-3ヶ月間(詳細時期は要相談)		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週3-4回、2-3ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発分野や国際協力に対する関心		
必須	事務処理能力(Microsoft Word, Excel, Power pointなどを用いた資料作成等、事務作業)		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): 机(執務スペース)			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 JICAのキャリアを知ってもらうための機会(職員訪問等)についても、要望に応じて、可能な範囲でアレンジすることも可能です。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本17
■部署名:	国際協力調達部	■募集人数(人)	1
■課名:	計画・調達戦略課		
■テーマ			
「調達」を切り口に、統計情報やデータの利活用、デジタルを活用した業務改善等の視点から国際協力業界を学ぼう！			
■テーマの概要			
<p>JICAが途上国の現場で活動を行うために、人材の派遣やモノやサービスを迅速に提供する等の調達が欠かせません。そのようなロジスティックスを支えているのが、JICAの中の「国際協力調達部」です。国際協力調達部では、業務を通じて様々な統計情報が蓄積されており、これらの情報から有用なデータを導き出し、現場での支援へ活かしていく取り組みを進めていくところです。また、RPA (Robotic Process Automation=ロボットによる業務自動化)をはじめとしたデジタル技術を活用して様々な業務改革やDXを推進しています。本ポストでは、ロジスティックス部門における統計情報の整備やデータの利活用、デジタル技術を活用した業務改善・改革の一端を体験することで、JICAにおけるロジスティックス業務を支える仕組みを理解するとともに、組織運営に欠かせないデータやデジタル活用の視点を学ぶことができます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本ポストでは、初めに、JICA業務の概要の説明および国際協力調達部の位置づけに関する説明をしたのち、以下の活動内容等を想定しています。どの業務を中心に行うかは、当部の状況とご本人の希望や受入時期・期間に応じて調整します。統計・データ分析や、業務改善・改革、IT活用などの中で力を入れたいものを選んで取り組むことができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 契約統計情報の公表作業の補助 2. JICAのパートナーとなる団体情報管理の意義と実践 3. データ利活用業務タスク・勉強会補助 4. 当部の果たすべき役割 (Value) を強化するための活動モニタリングの支援 5. RPA業務自動化タスク補助、業務フローからRPAシナリオを実際に作成する 6. 問い合わせ削減タスク補助・わかりやすいマニュアルやFAQの作り方の補助 7. インターン活動結果の発表、業務改善への提言 			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA事業と調達の関係：https://www.jica.go.jp/about/announce/beginner/activities/index.html ・ 公共調達の適正化に係る情報の公表（本邦における契約の公表）： https://www.jica.go.jp/about/announce/proper/domestic/index.html 			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
国内にあるJICA拠点の視察 (https://www.jica.go.jp/about/basic/structure/domestic/index.html) * 東京近郊を想定			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 1~2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2-3回程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発分野や公共調達に対する関心		
必須	事務処理能力 (Microsoft Word, Excel, Power pointなどを用いた資料作成等、事務作業)		
望ましい	データサイエンス、ITやデジタル技術に対する関心		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

〈文系・理系問わない〉

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本18
■部署名:	国際協力調達部	■募集人数 (人)	1
■課名:	調達支援課		
■テーマ			
JICAのロジスティックスについて学んで、国際協力人材としての競争力を高めよう！国際協力事業に将来携わりたい人必見。			
■テーマの概要			
<p>国際協力調達部は、JICAのロジスティックスの要として、事業部門と両輪となり、多様なパートナーとの共創を通じて人間の安全保障と質の高い成長を目指すために、物品やサービス等を調達しています。協力企業の選定や、必要な物品等の調達は、JICA事業を実施するうえで不可欠な機能であると共に、活動の成否を左右する要因ともなります。また、よりよい調達を迅速に行うために、国際機関との調達部分野における連携推進も重要な要素となっています。本プログラムでは、事業の現場である、国内外における100拠点以上が担っている調達・契約業務のプロセスについて、理解を深めることが出来ます。JICA事業に携わりたい方や国際協力分野を目指す方にとって、公共調達の原則、適正な調達プロセスを理解し、事業を支えるロジスティックスを理解することは、非常に有益です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本プログラムを通じて、以下の点を中心に、調達・派遣業務部の役割と機能に対する理解を深めていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICAの活動概要 (特に国内・在外拠点) ・ JICAの調達プロセス ・ 国内外拠点の調達と本部の役割 ・ 国際機関の調達プロセス、国際機関との連携推進に係る検討 <p>上記の理解を深めていただくために、調達・派遣業務部職員の実務の支援のもと、以下の活動を実施いただく予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国内外拠点に対する調達関連業務の補助 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各拠点と調達実施方針の打合せ (契約書類の内容確認を含む) ・ 調達関連勉強会、セミナー等開催補助 2) 調達・派遣業務部の調達支援サイトにおける情報提供の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外拠点向けに、イントラネット上で発信している情報の見直し、資料やサイト構成の改善 3) 国際機関の調達プロセスに関する情報収集、比較検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際機関の調達ルールやガイドラインの情報収集 ・ JICAと国際機関の調達手続き及び契約資料の比較分析 4) インターン結果の発表、JICAへの提言 			
■参考情報			
<p>JICA調達情報 https://www.jica.go.jp/announce/index.html 国際キャリア総合情報サイト https://partner.jica.go.jp/</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内拠点 (首都圏) における調達業務支援への同行・視察 例：東京センター、横浜センター、筑波センター等 ・ 入札会の立ち合い ・ 国内拠点の活動 (研修員受入事業や市民参加事業等) の視察 ・ 希望があれば外務省等への往訪も調整可 			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 2-3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可		可	週3-5回程度
■希望する人材 (大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発分野や公共調達に対する関心		
必須	基本的な英語の読み書き及び会話能力 (TOEIC 700点相当目安)		
必須	事務処理能力 (Microsoft Word, Excel, Power pointなどを用いた資料作成等、事務作業)		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他 (提供可能な事項) : 机 (執務スペース)			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			
JICAのキャリアを知ってもらうための機会 (職員訪問等) についても、要望に応じて、可能な範囲でアレンジすることも可能です。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

〈文系・理系問わない〉

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本19
■部署名:	国際協力調達部	■募集人数(人)	1
■課名:	渡航推進課		
■テーマ 「海外出張手配」のカイゼン ～実データを用いた現状分析と旅費削減・業務効率化を目指した提案づくり～			
■テーマの概要 JICAは途上国の現場で活動するために専門性を持つ人材の派遣や、モノ・サービスの調達・提供を行っています。この際のロジスティックスを担うのが国際協力調達部です。 ロジスティックス業務の一つに調査団や専門家の「海外出張の手配」がありますが（昨年度は約4,000人の海外出張手配を実施）、最近「航空便の減少や燃料費の高騰による航空賃高騰への対応」が課題となっています。定められた予算の範囲内で必要な出張が行えるよう、旅費削減や手配業務の効率化が必要です。 この課題解決のために、当部に蓄積されている様々な海外出張に関するデータを整理・分析することで、旅費削減や手配業務効率化につながる提案を作る予定です。なお提案には、別途導入を進めているRPA（Robotic Process Automation）やその他の技術の利用も含める予定です。 本プログラムでは、海外出張手配業務について、実データを用いた分析と、この分析に基づく「カイゼン提案」の作成により、データ活用やデジタル技術活用による業務改善を経験できます。また、準拠するルールの基礎となる「旅費」についても学ぶことができます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本プログラムでは、JICA業務の概要説明および国際協力調達部の位置づけに関する説明をしたのち、以下の活動内容等を想定しています。どの業務を中心に行うかは、当部の状況とご本人の希望、受入時期・期間に応じて調整します。統計・データ分析や業務改善・改革、IT活用などの中で力を入れたいものを選んで取り組むことができます。 1. 旅費制度の理解 2. 旅費の傾向分析（地域、国、航空会社、フライトクラス等） 3. 旅費削減案の検討（条件の異なる航空券への変更、公用マイレージ活用等） 4. 旅費削減の試算、シミュレーション 5. 当部の果たすべき役割を強化するための活動モニタリングの支援（RPA利用含む） 6. インターン結果の発表、業務改善への提案			
■参考情報 国際協力機構年次報告書2023： https://www.jica.go.jp/about/disc/report/2023/index.html 調査団員 JICAについて - JICA https://www.jica.go.jp/about/recruit/investigation/index.html 技術協力プロジェクト専門家・個別専門家 JICAについて - JICA https://www.jica.go.jp/about/recruit/project/index.html 独立行政法人国際協力機構外国旅費規程： https://www.jica.go.jp/joureikun/act/frame/frame11000027.htm			
■参加(同行)可能な行事・視察等 出張手配時の外部関係者との打合せ（旅行会社等）			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 1~2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2-3回程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	事務処理能力 (Microsoft Word, Excel, Power Pointなどを用いた資料作成等、事務作業)		
必須	統計的手法等のデータ活用による具体的な業務改善		
望ましい	国際協力、開発分野に対する関心		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-本20
■部署名:	緒方貞子平和開発研究所	■募集人数(人)	1
■課名:	企画課		
■テーマ 緒方貞子平和開発研究所の広報活動			
■テーマの概要 緒方貞子平和開発研究所は、平和と開発のための実践的知識の共創をビジョンとして掲げ、世界の平和と開発のために、現場重視の視点をもった質の高い研究を行い、政策インパクトのある発信を目指しています。インターンシップを通じて、JICA内外での緒方研究所への認知度向上を目的とした広報業務を補佐することで、開発×研究×広報の分野で広報計画・立案からコンテンツ作成までを一通り経験していただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ 広報計画・立案を補佐する。主に、「プロジェクト・ストーリー」シリーズおよび「人間の安全保障」を想定し、ターゲットは学生層等。 ・ 広報コンテンツ作成の補佐業務として、緒方研究所の広報媒体（ウェブサイト、SNS、動画、メルマガ）やセミナー等での対外発信用資料を作成する。（例）人間の安全保障レポート概要版のプレゼン資料作成 ・ 上記の他、関心があれば、セミナー開催等の活動への参加も可能。			
■参考情報 ・ JICA緒方研究所ウェブサイト https://www.jica.go.jp/jica_ri/index.html ・ プロジェクトストーリーシリーズ https://www.jica.go.jp/jica_ri/publication/projecthistory/index.html ・ 人間の安全保障 https://www.jica.go.jp/jica_ri/research/pickup/humansecurity/1546300_56109.html ・ JICA緒方研究所 動画コンテンツ https://www.jica.go.jp/jica_ri/news/movie/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 緒方研究所が企画するJICA内および対外セミナー			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週1~3回
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	緒方研究所ウェブサイトの記載内容が理解できる程度の英語力		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 国内機関ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-国 01	北海道センター 道東業務課	3	国際協力を通じた地方創生・SDGsへの貢献 ～多文化共生・開発教育・研修・広報を通じて～
2402-国 02	筑波センター 総務課	2～4	国内センター理解：国際協力キャリア形成のきっかけ作りのために
2402-国 03	筑波センター 研修業務課	1～2	課題別研修「天水稻栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう
2402-国 04	筑波センター 研修業務課	1～2	課題別研修「アフリカ地域 市場志向型農業振興（普及員）」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう
2402-国 05	東京センター 市民参加協力第二課	2	JICA東京における市民参加協力事業の分析と発信及び業務補佐
2402-国 06	北陸センター 業務課	2～3	北陸3県におけるJICA北陸と地域との共創促進
2402-国 07	関西センター	7	関西における国内事業全般（総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属）
2402-国 08	九州センター 企業連携課	1	JICA九州センターでの中小企業・SDGsビジネス支援事業に関連する情報収集、広報ツールの作成

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

<文系・理系問わない>

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国01
■部署名:	北海道センター	■募集人数(人)	3
■課名:	道東業務課		
■テーマ			
国際協力を通じた地方創生・SDGsへの貢献 ～多文化共生・開発教育・研修・広報を通じて～			
■テーマの概要			
JICA北海道センター（帯広）では、地方自治体、大学、NGO、民間企業等との協働を通じ、「途上国の課題解決」と「道東地域の活性化・国際化」への貢献を目指しています。本インターンシップでは、農畜産業、自然環境、観光に強みを持つ道東地域（十勝、オホーツク、釧路、根室）の特徴や課題を把握するとともに、JICA北海道センター（帯広）が実施する多様な国際協力メニュー（研修、開発教育、外国人材受入支援、広報等）を理解・体験することで、地域密着型の国際協力の在り方を考察いただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p><事前プログラム（オンライン）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：自己紹介、志望動機、取り組みたいことの共有 ・道東地域発展の映像視聴 <p><メインプログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生・外国人材受入支援業務：道東各地域における多文化共生事業の補助 ・国際理解教育支援事業の運営補助：小中学生のJICAセンター訪問、JICA研修員の小中学校訪問の運営補助 ・国際交流イベント運営補助：国際交流を目的としたイベントの一部企画の計画・運営 ・研修コース運営補助：途上国の行政官や技官向け研修コース（家畜衛生等）の講義・視察、研修員との交流プログラム参画 ・ボランティア事業の広報：派遣中ボランティア隊員や帰国隊員、JICA海外協力隊グローバルプログラム（派遣前型）参加者への取材 ・広報活動：各種事業のHP・SNS記事作成・発信、FMラジオ番組への出演、地域イベントでのJICAブース運営補助、映像撮影 <p>※上記プログラムを基本とし、ご希望・関心事項に応じたプログラムを検討。取り組み内容によって、オンライン事前打ち合わせ実施の可能性有。</p>			
■参考情報			
<p>JICA北海道パンフレット（札幌・帯広共通） https://www.jica.go.jp/sapporo/office/pr/ku57pq000005mliy-att/profile.pdf</p> <p>JICA北海道（帯広）とSDGs https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/activities/1520565_2432.html</p> <p>JICA北海道（帯広）館内案内 https://www.youtube.com/watch?v=V1bT5Krxjpw</p> <p>JICA北海道（帯広）Instagramアカウント https://www.instagram.com/jica_obihiro/</p> <p>JICA北海道（帯広）Facebookアカウント https://ja-jp.facebook.com/jicahokkaido.obihiro</p> <p>道東地域発展のプロセスの映像視聴 https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/material/index.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<p>国際交流イベント「国際フェスタ2025」（2月上旬土日）</p> <p>JICA研修員地域理解プログラム（2月下旬）</p> <p>JICA研修員地域学校訪問・交流プログラム（2月下旬）</p> <p>JICA広報番組へのラジオ出演（随時）</p> <p>道東地域のイベントのブース出展補助</p>			
■受入時期・期間			
2025年1月中旬から2月下旬までの 2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	補足：上記期間内であれば、活動期間・頻度は調整可能	可	1.5ヶ月間のうち週1、2回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： 執務スペース、Wi-Fi			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・JICA北海道センターは、札幌と帯広にそれぞれ拠点があります。本インターンシップは、JICA北海道センター（帯広）で実施します。 ・空室がある場合、希望により、JICA北海道センター（帯広）館内の宿泊施設をご利用いただけます。 ・メインプログラムは、基本的に対面での実施を想定しております。 			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国02
■部署名:	筑波センター	■募集人数(人)	2~4
■課名:	総務課		
■テーマ			
国内センター理解：国際協力キャリア形成のきっかけ作りのために			
■テーマの概要			
<p>JICAの国内センターは、開発途上国と日本の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進するとともに、地域の発展に貢献する活動を進めています。JICA筑波は、保有する農業・農村開発分野の実践的研修施設を活かしつつ、筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関との連携を強化し、農業、防災、気候変動対策などの研修員受入事業を実施しています。また、所管する茨城県と栃木県のJICA海外協力隊、草の根技術協力、開発教育支援、中小企業・SDGsビジネス支援等の事業を実施しています。</p> <p>今回のポストでは、JICA筑波が実施する研修員受入事業、共創ハブ、開発教育支援、広報・総務等の事業を体験しつつ、各自の個別テーマ設定を行った上で、情報収集・分析、各自のアイデアの提案を行っていただきます。また、JICA筑波で勤務する職員、研修委託スタッフ、協力隊OV等多様な人材のキャリアに触れる機会を設定しますので、ご自身のキャリア検討の機会として活用いただけます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップは、JICA筑波が実施する幅広い業務の体験、個別テーマの対応、キャリア面談などを行って頂きます。詳細な活動は、決定後に、各自の希望を踏まえて相談しながら設定します。</p> <p>具体的な活動例は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 途上国の農業開発を担う中核人材を育成する研修の講義、圃場実習、実験への参加 2. 日本の優良事例を学ぶ、研修員の日帰り視察研修への同行 3. 農業共創ハブの関連業務の補助 4. JICA筑波への施設訪問、研修員の学校訪問などの開発教育の補助 5. 「JICAつくば地球ひろば」（開発教育、国際理解教育に特化した展示空間）発足に伴う広報業務、経理・契約・総務業務等の補助 6. 個別テーマの設定、情報収集・分析、アイデア提案：例 JICA筑波広報戦略、DX化など 7. 多様な国際協力人材とのキャリア面談 			
■参考情報			

<https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/index.html>

■参加(同行)可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加も可能です。			
■受入時期・期間			
2025年2月から3月までの 3~6週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：具体的な期間については各自の都合に応じて相談可能なため。	可	週3日以上
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での研究を行っている、または行う予定のある方		
望ましい	日常会話レベルの語学力(英語)(TOEIC550点以上)		
望ましい	PCスキル(Word・Excel・PowerPoint、オンライン会議、動画編集等)		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項)：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		2,600円/泊(学生)	
■備考・留意点			
JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、2,600円/泊でご利用いただけます。受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。PCは当機構のものを貸与します。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国03
■部署名:	筑波センター	■募集人数(人)	1~2
■課名:	研修業務課		
■テーマ 課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう			
■テーマの概要 多くの開発途上国において、農業セクターは、総労働人口の過半を占める就労人口を抱える主要な産業です。イネは多くの開発途上国で栽培・消費されている主要穀物の一つであり、この生産量向上を食料安全保障の課題に掲げる国も少なくありません。しかしながら、とりわけアフリカでは、イネの生産面積は拡大しているものの、依然として生産性は低い数値です。また、開発途上国の研究機関、農業技術普及等の行政組織が人的、資金的に脆弱であり、かつ研究員、普及員の能力が農家のニーズに対応しきれておらず、人材の育成が喫緊の課題となっています。このような状況から、「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースでは、筑波センターで保有する農業研修施設・圃場等を活用し、アフリカ稲(ネリカ)等を中心に①畑地、水田にける稲作栽培技術に関する知識・技術の向上、②種子生産、品種比較の実証試験、③技術普及の検討、改善に向けて、講義、実習、視察等を通じて、求められる知識と能力の向上を目指しています。なお、国際協力分野でのキャリア形成に関心をお持ちの場合は、2日間程度の追加プログラムの実施も可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースに参加し、JICA筑波、研修委託先と協力しながら、研修およびJICA筑波事業の業務補助を行って頂きます。詳細な活動はインターン決定後に決定します。 具体的な活動例は以下のとおりです。 1. 国際協力研修事業の現場理解(研修員の生活や問題に関する相談) 2. 農業共創ハブに関連する業務・広報(SNS記事作成) 3. 指導業務補助(技術指導補佐、圃場での調査補佐) 4. 月別研修カリキュラム作成補助 5. 研修計画に沿った資料作成・講義補助			
■参考情報 JICA筑波農業共創ハブウェブサイト https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/agricul/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。 昨年度イベント実施例： https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/index.html			
■受入時期・期間			
2025年3月の1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由：上記期間以外は研修が実施されていないため。	可	週2~3回、1ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での(できれば)作物に関する調査等、試験研究の経験または行う予定のある方。		
必須	日常会話レベルの語学力(英語)(TOEIC550点以上)		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項)：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		2,600円/泊	
■備考・留意点 圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。 JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、2,600円/泊(朝食付)でご利用いただけます。(要予約) 受入時期・期間は、相談の上、設定いたします。 なお、国際協力分野でのキャリア形成に関心をお持ちの場合は、2日間程度の追加プログラムの実施も可能です。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国04
■部署名:	筑波センター	■募集人数(人)	1~2
■課名:	研修業務課		
■テーマ			
課題別研修「アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう			
■テーマの概要			
<p>JICAはビジネスとしての農業による所得向上を目指しながら、農家ひとりひとりの「やる気」を引き出し、自助努力によるさらなる成長を推進する、というSHEP(Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion)アプローチを提唱しています。「市場志向型農業振興(普及員)」コースでは、小規模農家が作物を「作ってから売る」のではなく「売るために作る」というケニアで成果をあげている、このSHEPアプローチという手法を中心に市場志向型農業の基本的な考え方について学びます。また、市場ニーズに対応した野菜栽培技術、流通・販売方法および普及手法について、講義や視察に加え、演習や圃場実習も取り入れ、帰国後活動を見据えながら実践的に学んでいきます。このコースは、事前プログラム・本邦プログラム・事後プログラムの3つのプログラムから構成され、事前および事後プログラムは遠隔研修、本邦プログラムは来日研修により実施されます。なお、国際協力分野でのキャリア形成に関心をお持ちの場合は、2日間程度の追加プログラムの実施も可能です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップでは「市場志向型農業振興(普及員)」コースの事前プログラム(遠隔研修)に主に参加し、JICA、研修業務委託先と協力して研修実施の補助を行っていただきます。なお、詳細な活動は、決定後に設定します。</p> <p>具体的な活動例は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修計画に沿った資料作成等の業務補佐 2. オンラインセッション等における研修員とのコミュニケーションを含む研修運営補佐 3. 研修員が抱える課題とその解決策の聞き取り 4. 事前プログラム(遠隔研修)で実施するオンラインセッションや動画教材等に関する研修員に対するサポート 5. 野菜栽培指導のための圃場等の準備作業(土壌消毒、トマト播種・育苗等を含む) 6. 本コースの広報活動補助(Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事) 7. その他、研修業務課の業務補助等 			
■参考情報			
<p>【日程案】2025年 2月10日(月)~2月14日(金) オンライン参加(筑波センターでの参加も可能です) 遠隔研修の業務補佐(研修員のプロフィールデータの作成、研修員の抱えている問題のまとめ、キックオフミーティングのオンライン参加、キックオフミーティングの参加結果についてSNS・HP記事の作成)</p> <p>3月3日(月)~3月7日(金) 筑波センター等での参加(オンライン参加はできません) 来日前準備の業務補佐(事前課題のモニタリング、トマト播種準備、トマト播種、オリ資料作成、関連部署との調整・打合せ)</p> <p>3月10日(月)~3月14日(金) 筑波センターでの参加(オンライン参加はできません) 来日後受入の業務補佐(フリーティング、開講式、プロオリ、図書室オリ、コースオリ、作業着試着採寸、現地課題の抽出と個別課題の検討、ベンチマークテスト、インセプションレポート作成)</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2025年2月から3月までの 3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での研究を行っている、または行う予定のある方		
望ましい	日常会話レベルの語学力(英語)(TOEIC550点以上)		
望ましい	PCスキル(Word・Excel・PowerPoint、オンライン会議、動画編集等)		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		2,600円/泊	
■備考・留意点			
<p>JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、2,600円/泊でご利用いただけます。受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。基本的にはご自身のPCを使用いただきますが、PCをお持ちでない方には貸与します。また、機構内の情報へアクセスが必要な場合はPCも貸与します。</p> <p>なお、国際協力分野でのキャリア形成に関心をお持ちの場合は、2日間程度の追加プログラムの実施も可能です。</p>			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国05
■部署名:	東京センター	■募集人数(人)	2
■課名:	市民参加協力第二課		
■テーマ JICA東京における市民参加協力事業の分析と発信及び業務補佐			
■テーマの概要 (1) JICA東京市民参加協力第二課では、NGOや大学等の市民と協働した国際協力＝市民参加協力事業を行っています。具体的には、開発途上国・地域の住民の生活改善・生計向上に直接役立つ事業を実施するとともに、日本の市民の国際協力への理解・参加を促す機会を創出することを目指しています。本インターンシップでは、市民参加協力事業（特に寄附金活用事業に焦点をあてて）の分析を行い、どのような要因が成果、インパクトにつながったか、またどのような課題があるかなどを考察し、教訓の抽出を行い、JICA東京内外への発信を中心に行っていただきます。 (2) また、市民参加協力事業の業務補佐（事業実施団体等との会議への参加、議事録作成、各種勉強会や会議の運営補助等）の経験を通じて、JICA国内機関が実施する業務への理解を深めていただくことを目指します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 (1) 市民参加協力事業（特に寄附金活用事業に焦点をあてて）のレビューと発信・市民参加協力事業の実施団体にインタビューを行いweb記事を書き、JICA東京のHP（トピックス）に掲載する。 ・寄附金事業の傾向（対象国・地域、分野課題）、事業実施団体の傾向（地域・団体種別）、応募数と採択数の傾向等についてデータ収集・分析を行う（報告書や成果物の分析、事業実施団体へのアンケートやインタビュー、案件担当者へのヒアリング）。 ・分析結果をふまえて教訓と課題について整理し、インターンシップ報告会やJICA東京のHP（トピックス）で発信する。 (2) 市民参加協力事業の業務補佐 ・市民参加協力事業の業務補佐（事業実施団体との会議への参加、議事録作成、各種勉強会や会議の運営補助等） ※インターン生の関心と経験に合わせて活動内容を調整することも可能です。			
■参考情報 https://www.iica.go.jp/Resource/partner/private/kifu/09.html https://www.iica.go.jp/domestic/tokyo/activities/kusanone/index.html https://www.iica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2022/_icsFiles/afieldfile/2024/05/24/review_report.pdf			
■受入時期・期間 市民参加協力事業を実施中または検討している団体（NGO、大学、自治体、民間企業等）との打ち合わせ会議への参加。事業実施団体へのインタビュー（対面ないしオンライン）。各種会議およびセミナー、勉強会への参加。			
■受入時期・期間（調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）			
2025年1月中旬から3月中旬までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外を含めて調整可		可	週2～3回、2ヶ月間程度
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
■提供可能な執務環境等			
■執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
☑完全対面形式 ☑一部リモート可 ☑PC貸出 ☑関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1500円/日		5300円/泊	
■備考・留意点 本活動は、インターン2名が1つのチームとなって、相談・協働しながら上記に示す活動を共に進めていただく予定です。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国06
■部署名:	北陸センター	■募集人数(人)	2~3
■課名:	業務課		
■テーマ 北陸3県におけるJICA北陸と地域との共創促進			
■テーマの概要 2024年1月1日の能登半島地震をきっかけに能登地域において人口流出が加速化している事例をはじめ、北陸地方は途上国に近い将来抱える諸課題(少子高齢化・過疎など)を先取りしている課題先進地域と言える。北陸3県において地域課題・地球規模課題(SDGs等)の解決に取り組んでいる組織や個人を調査・ヒアリングし、その課題への理解を深めるとともに、「内外一元化」・「内なる国際化」のために共創できるパートナーを探索。JICA北陸との今後の連携を検討・提案する。 想定されるテーマ例: 富山県: スマートシティ、再生可能エネルギー、地元資源を活用した産業振興、外国人材との共生 など 石川県: 里山里海(生態系保全と経済活動)、SDGs教育、観光産業と地域経済 など 福井県: 外国人材の適切な受け入れ促進、高齢者福祉、教育 など そのほか、各県の特長を生かした共創的な観点からのテーマ等、インターン生間、JICA北陸との相談の上でテーマ選定する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンシップ活動としては、地域課題への理解・分析、取り上げる課題の選定、候補団体の抽出、当該団体等へのコンタクト、同意を得られた団体等への訪問・ヒアリングの実施、JICAと連携した地域課題解決のモデル検討をJICA北陸スタッフと協働しつつ実施する。その調査結果を報告書に取りまとめ、JICA北陸へ提案することが期待される。なお、複数名参加の場合は、各々の取り組み内容に相互にインプットし合い、発表内容をインターン生間でひとつにとりまとめることも奨励する。 想定されるインターンシップ活動の流れ: ①地域課題について知る ②扱いたい地域課題の選定 ③②に取り組んでいる組織の調査・ロングリストの作成 ④③からショートリストを作成し、インタビューや視察による調査を行い、JICAとの連携を探る ⑤インターン生間でとりまとめ、JICA北陸への提案発表			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA北陸と地域のステークホルダーとの面談、共創の活動現場への同行が可能。			
■受入時期・期間			
2025年1月から2月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由: 大学の休暇期間等にあわせて実施期間変更は応相談。		可	週1、2回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	外部団体にコンタクトし、各種ヒアリング調査をおこなうため、対人関係において積極性を有する方が望ましい。		
望ましい	テーマ、活動計画策定等はJICA北陸スタッフのサポートのもと、インターン生主導で決定・実施するため、自ら積極的に考察・提案・活動できる方が望ましい。		
望ましい	複数名のインターン生による協働が想定されるため、チームワークによる作業を積極的にできる方が望ましい。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3000円/日		10000円/泊	
■備考・留意点 本インターンシップでは一部リモートで活動を行うことも可とするが、対象地域である北陸3県(富山、石川、福井)を実際に訪問する機会を設けることを必須とする。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国07
■部署名：	関西センター	■募集人数（人）	7
■課名：			
■テーマ			
関西における国内事業全般（総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属）			
■テーマの概要			
<p>JICA関西は、関西の2府4県（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）のJICAの拠点として、自治体、企業、大学、NPO・NGOや関西の市民の皆さんとともに国際協力事業を展開しています。開発途上国のリーダーを育成する研修員受入事業（防災、民間セクター開発、環境分野等）、自治体・大学・NGO/NPOなどの皆さんの知見や経験を活かす国際協力活動支援（草の根技術協力）、出前講座などの開発教育、企業のすぐれた技術やサービスを開発途上国の発展に活かす民間連携事業など、幅広い事業を実施しています。阪神淡路大震災の経験・知見を世界に発信すべくJICAと兵庫県とが協力して設置された国際防災研修センター（DRLC）もJICA関西の特色です。また最近の動きとして、多文化共生・外国人材受入支援や、関西SDGsプラットフォームを通じた関西でのSDGs推進の取り組みを行っています。本インターンでは、JICA関西が行うJICA事業、そして日本でできる国際協力事業について理解することを目的とします。配属する課は、インターン学生の研究分野・興味関心と各事業の年間スケジュールを考慮の上、決定します。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>以下事業の業務補助を行っていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 途上国の行政官・研究者等を招いての日本での研修実施（短期技術研修員受入事業※特に防災分野） ・ 途上国の将来のリーダーとなるJICA留学生受入れ、日本文化理解プログラムの実施 ・ 自治体・大学・民間企業による国際協力への参画支援 ・ 一般市民や青少年が国際協力への理解を深めるための啓発事業 ・ 大学・高校・小学校との連携による開発教育支援事業 ・ NGO 支援事業 ・ 多文化共生・外国人受入支援 ・ SDGs推進 ・ イベント開催を含む広報事業等 <p>※各事業詳細はJICA 関西のHPを参照のこと。</p>			
■参考情報			
<p>JICA関西ホームページ https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/index.html</p> <p>DRLCホームページ https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/drlc/index.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
期間中に実施するイベント（市民向け、留学生や研修員向け、在留外国人向け等）、短期技術研修への同行、開発教育の講座への同行			
■受入時期・期間			
2025年1月中旬から3月中旬までの 2ヶ月間(週2~3程度)		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2、3回、2ヶ月程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Officeの操作経験		
望ましい	日常会話レベルの英語能力（TOEIC600点程度）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 週に2~3日を2か月程度参加可能な方。 ・ 具体的なインターンシップ内容は上記を想定していますが、取り組んでみたい特定の活動やテーマ等のアイデアがある場合には、応募申請書に提案を記載して下さい。また、インターン発意による企画の計画・実施も歓迎します。 ・ 空室があればJICA関西に宿泊可能です（1泊5,300円・朝食付） 			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2402-国08
■部署名:	九州センター	■募集人数(人)	1
■課名:	企業連携課		
■テーマ JICA九州センターでの中小企業・SDGsビジネス支援事業に関連する情報収集、広報ツールの作成			
■テーマの概要 中小企業・SDGsビジネス支援事業は開発途上国の課題解決に貢献する日本の民間企業等のビジネスづくりを支援するものです。九州センター企業連携課では九州地域7県(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県)を所管し、自治体、地域金融機関等と共に、企業の海外展開を支援しています。 中小企業・SDGsビジネス支援事業はJICAの中では比較的新しい施策であるため、九州域内のより多くの企業に施策を知ってもらおうべくセミナーやイベントで説明を行ったり、九州に特化した経済誌で情報発信を行ったりしています。 インターンの方にはインターンシップの活動を通じて、中小企業・SDGsビジネス支援事業への理解を深めていただき、関連情報の情報収集を行ったり、採択企業連絡会や広報ツール作成などの業務補佐を行っていただくことを想定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 中小企業・SDGsビジネス支援事業に関連する情報収集 九州経済誌等に掲載されている情報をもとに、中小企業・SDGsビジネス支援事業の活用可能性がありそうな情報を収集し、継続的に活用できるリストにまとめる。 2. 採択企業連絡会 中小企業・SDGsビジネス支援事業に採択された九州圏内の企業を対象に企業間のネットワーキングや事業実施における課題・教訓の共有を目的に企業連絡会を開催予定。同連絡会の企画、運営に関わる活動を行うことを想定。 3. 広報ツール作成 九州圏内の企業にJICAの支援施策を知ってもらうため広報ツールを作成予定。広報ツール作成に係る業務に関わってもらうことを想定。			
■参考情報 中小企業・SDGsビジネス支援事業 https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html 九州センターの民間連携事業Webページ https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/activities/priv_partner/index.html 2023年度企業連絡会開催報告 https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/information/topics/2024/1536460_52260.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 採択企業連絡会			
■受入時期・期間			
2025年1月中旬から3月中旬までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3、4回、1ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式 <input type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 ・インターンシップ期間中(一部期間でも)希望があれば九州センターの宿泊施設を利用いただけます。(5,300円/泊、朝食付)			

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 在外ポスト一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-在 01	中華人民共和国事務所	2	中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析業務補佐
2402-在 02	エクアドル事務所	1	エクアドル事務所のブランディング強化、研修業務の補佐
2402-在 03	タンザニア事務所	1	タンザニアにおける稲作振興協力 -JICAの技術協力の現場から-
2402-在 04	タンザニア事務所	1	タンザニアにおけるワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて -JICAの科学技術協力の現場から-
2402-在 05	コートジボワール事務所	1	養殖魚バリューチェーン開発を通じた内水面養殖再興計画プロジェクト（PREPIC02）のデータ分析業務補佐
2402-在 06	コートジボワール事務所	1	国産米振興プロジェクトフェーズ2（PRORIL2）のデータ分析業務補佐
2402-在 07	セネガル事務所	1	セネガル事務所保健セクター事業運営補佐
2402-在 08	ボツワナ支所	1	JICAボツワナ支所における技術協力事業の実施支援
2402-在 09	エジプト事務所	1	ユニバーサルヘルスカバレッジ達成のためのエジプト向け保健分野協力の業務補佐

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在01
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 東・中央アジア	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	中華人民共和国事務所		
■テーマ 中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 2021年3月に対中ODAは終了し、現在JICA中国事務所では「新しいODA卒業国との連携にかかるグッドプラクティスの創出」と「中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析」を二本柱に業務を実施している。中国の対外援助は、その存在感がますます大きくなっていることから、JICA内外からの関心・注目度が非常に高いテーマである。中国の対外援助に関する情報を開発機関の視点から継続的に収集・分析することは、JICAにとって重要な業務であり、当事務所としてはこの新たな取り組みを試行錯誤しつつ実施しているところである。			
■具体的なインターンシップ活動内容 中国対外援助にかかる公開情報の収集と分析。中国事務所員の指示に基づき、中国内外の論文等に加え、現地報道や論説などから多角的に情報を収集し、分析する。また、中国国内で活動するマルチ・バイのドナーの動きについても必要に応じて情報収集する。インターン期間中に要人訪問やフォーラム開催などの対外援助にかかるイベントがあれば、その情報についても収集する。また、関連機関との面談などがあれば同席予定。			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等 中国研究機関・シンクタンク・他ドナー（EU、GIZ等）との面談や関連のフォーラムがあれば参加			
■受入時期・期間 2025年1月から3月中旬までの期間、1人あたり2週間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	中国の対外援助に関心がある学生（学部・修士・博士）		
必須	リサーチ業務が遂行可能な日本語および中国語能力を有する者（ネイティブレベルもしくは中国語HSK6取得者、日本語N1取得者）		
必須	国籍不問。外国人留学生（日本人含む）の場合、すでに留学ビザを取得済みかつ中国滞在中であること		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1500円／日		5000円／泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 特段なし（北京市内）			
■備考・留意点 インターン期間は週3回程度の出勤を想定しているが、合格後本人と調整可。 既に現地に滞在されている方を対象としているため、滞在費および渡航費の補助はありません。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在02
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	エクアドル事務所		
■テーマ エクアドル事務所のブランディング強化、研修業務の補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 【広報業務】 主にエクアドル国内でのエクアドル事務所やその活動の認知度向上を目的とした広報活動。 ウェブサイトやInstagramを始めとしたエクアドル事務所の広報媒体の現状を把握し、効果的な広報を企画、提案、運用する。 【研修業務】 過去2400人以上の研修生を派遣している研修事業において、研修員派遣前プロセスの改善提案や、帰国研修員のモニタリング、事後活動のグットプラクティス類型化を行う。なお、広報業務との連携も期待される。			
■具体的なインターンシップ活動内容 【広報業務】 ・エクアドル事務所の広報媒体（ウェブサイト、Instagram）の機能性を確認し、問題点や課題についてリスト化する。 ・エクアドル国内で活動している類似機関等の広報媒体から、効果的な広報について情報収集を行う。 ・上記を踏まえ、日本人所員と現地職員で構成されるエクアドル事務所の広報班と協働で、より効果的な広報に向けた企画、提案、運用を行う。 【研修業務】 ・研修事業参加前の研修員に対するインプットやプロセスの分析をとおし、研修事業プロセスの改善提案を行う。 ・帰国研修員へのヒアリングやモニタリングをとおし、事後活動のモニタリングやグットプラクティスの類型化を行う。 ・上記の活動をとおした、研修事業の広報活動を行う。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/ecuador/office/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 産業開発分野のプロジェクト等、滞在中にミッションがあれば同行検討可能			
■受入時期・期間 2025年1月から2月までの 2ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	ウェブサイトの分析や簡単なインタビューができるスペイン語能力（DELE B1以上推奨）。		
望ましい	広報に関する知見・経験		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2310円 (USD15) /日		8320円 (USD54) /泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 日本からの渡航時に義務づけられている予防接種は特になし。 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/cs_ame/ecuador.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 2024年1月に非常事態宣言が発令されて以降、事務所が位置する首都キト市でも一時期な深夜の外出禁止令が出されていたが、2024年8月現在は大きな治安の悪化は確認されていない。沿岸部地域は引き続き非常事態宣言下にあるものの、キト市は治安上大きな問題はない。日本（羽田・成田）からの渡航はヒューストン経由が効率的（最短で片道約21時間）。			
■備考・留意点 事務所が位置する首都キト市は標高2850mあり、高山病にかかる人もいるため留意が必要。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

〈文系・理系問わない〉

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在03
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数 (人)	1
■部署名/事務所名	タンザニア事務所		
■テーマ タンザニアにおける稲作振興協力 –JICAの技術協力の現場から–			
■テーマ (プロジェクトなど) の概要 タンザニアはサブサハラアフリカ有数の稲作大国で、日本は1970年代からタンザニアにおける稲作振興を支援しています。また2008年第四回アフリカ開発会議 (TICAD IV) でJICAは「アフリカ稲作振興のための共同体 (Coalition for African Rice Development: CARD) を立ち上げ、現在2030年までにアフリカにおけるコメ生産量の倍増 (2800万トンから5600万トン) を目標として取り組みを他の協力パートナーとともにアフリカ各国で進めています。今回のインターン先は、アフリカ稲作協力の中でも、フラッグシッププロジェクトと言えるタンザニア技術協力プロジェクト「コメ振興能力強化プロジェクト (通称TANRICE3)」です。TANRICE3は2023年6月に開始され、灌漑及び天水稲作技術の普及、農家の生産性・収益性を高める課題別の研修 (種子生産、農業機械、灌漑組織運営、ジェンダー等) を行っています。インターンの方には、タンザニアの稲作振興の最前線で、JICAの専門家と共に、稲作農家がかかえる課題解決に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 現地研修補助 (活動地域: キリマンジャロ農業研修所以外の農業研修所) (1) 現地研修の準備・実施状況のモニタリング、改善点の検討 (2) 現地研修実施後の進捗確認・フォローアップ (3) 稲作栽培状況の把握 2. 自身が設定する稲作関連テーマの調査・検証 (活動地域: キリマンジャロ農業研修所、もしくはローアモシ灌漑地区) (1) テーマの設定、活動計画の検討、活動実施 (2) プロジェクトに対する報告 3. その他プロジェクト業務補助			
■参考情報 ・ TANRICE3関連調査報告書 (詳細計画策定調査報告書) https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/1000048840.pdf ・ アフリカ稲作振興のための共同体 (CARD) について https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html			
■参加 (同行) 可能な行事・視察等 灌漑稲作研修の現地研修: 1月中旬 (1週間) 天水低湿地の現地研修: 1月中 (1週間) 課題別研修 (マーケティング): 1月下旬 (1週間) 灌漑稲作研修のフォローアップ: 2月中旬 (2週間)			
■受入時期・期間 2025年1月中下旬から3月中旬までの 1ヶ月から2ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由:			
■希望する人材 (大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 必須 稲作関連の各種研修事業 (モニタリングを含む)、政府職員に対する人材育成、もしくはプロジェクト運営に関心があること 望ましい 将来、農業分野の専門家を志向していること			
■提供可能な執務環境等 □PC貸出 □携帯電話貸出 (必須) □関連情報・資料の提供等 その他 (提供可能な事項):			
■滞在費目安 (一日あたりの食費及び少額交通費)		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		1,000円/日	4,000円/泊
■渡航にあたり必須となる予防接種 厚生労働省のウェブサイト (https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html) を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。タンザニアは黄熱病のイエローカード対象国にはなっていませんが、黄熱に感染するおそれのある国・地域の国籍を持つ渡航者は、現在の居住地にかかわらず、証明書の提示を求められる場合があります。この点については厚生労働省検疫所のウェブサイト (https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/yellow_fever_certificate.html) をご覧ください。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 JICAウェブサイト (https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/rule.html) をご参照のうえJICA安全管理部 (JICA安全対策情報申請窓口): jicast@jica.go.jp へメールを送付し、JICA国別安全対策情報入手ください。また外務省の海外安全ページ (https://www.anzen.mofa.go.jp/readme/readme.html) をよく読み、必ずたびレジに登録ください。			
■備考・留意点 ・ 本ポストではJICAタンザニア事務所でのインターン勤務は想定しておりません。到着時の安全ブリーフィングや中間・最終時報告以外は、TANRICEプロジェクトでインターン勤務をして頂きます。 ・ 滞在許可証取得にかかる必要書類は、派遣決定後、JICAタンザニア事務所の指示に従って速やかに提出してください。 ・ 深夜早朝の発着便 (20時~6時) は極力避けてください。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

〈理系の方におすすめ〉

■受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在04
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	
■部署名/事務所名	タンザニア事務所	■募集人数（人）	1
■テーマ タンザニアにおけるワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて - JICAの科学技術協力の現場から -			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 タンザニアでは、畜産を含む農業セクターに人口の約7割が従事している。同国の家畜飼養頭数はアフリカで3番目に多く、畜産は同国の農業GDPの27%を占める重要な産業である。ブルセラ症及び人獣共通結核は、乳や肉等の動物由来食品を介した人獣共通感染症であり、その制御のため、バリューチェーンを含む畜産セクターだけでなく保健等の他セクターと協働したワンヘルスアプローチによる感染源対策がタンザニアにおいても必要である。本事業（地球規模課題課題対応国際科学技術協力、SATREPS）は、酪農学園大学を本邦研究代表機関とし、タンザニア南東部のモロゴロ州において、家畜と人のブルセラ症及び人獣共通結核の制御に有効な基盤情報と介入条件の特定ならびに介入体制の整備を行うことにより、ワンヘルス・教育・官民連携による制御アプローチの確立を図り、もって同アプローチの実践に寄与するものである。インターンの方には、タンザニアのワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて、タンザニアおよび日本の研究者と共に、課題解決手法の検討に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・保健・獣医療サービスシステムの聞き取り調査の補助 ・農家および住民への疫学的・社会経済的な質問票調査の補助 ・専門家が実施する各種サンプリング作業、検査の補助			
■参考情報 ・JICAタンザニア事務所ホームページ： https://www.jica.go.jp/overseas/tanzania/index.html ・JICAタンザニア事務所パンフレット： https://www.jica.go.jp/Resource/tanzania/office/others/bp63r60000005gz3-att/brochure_en.pdf ・本案件の事業事前評価表： https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2023_202209775_1_s.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・農家および住民への訪問 ・現地の保健・獣医療サービスの視察 ・実験施設での作業			
■受入時期・期間 2025年1月から3月中旬までの 1ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 獣医学部/学科			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000円/日		4,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 厚生労働省のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html ）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。タンザニアは黄熱病のイエローカード対象国にはなっていませんが、黄熱に感染するおそれのある国・地域の国籍を持つ渡航者は、現在の居住地にかかわらず、証明書の提示を求められる場合があります。この点については厚生労働省検疫所のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/yellow_fever_certificate.html ）をご覧ください。			
■滞在场所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 JICAウェブサイト（ https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/rule.html ）をご参照のうえJICA安全管理部（JICA安全対策情報申請窓口）： jicast@jica.go.jp へメールを送付し、JICA国別安全対策情報を入手ください。また外務省の海外安全ページ（ https://www.anzen.mofa.go.jp/readme/readme.html ）をよく読み、必ずたびレジに登録ください。			
■備考・留意点 ・本ポストではJICAタンザニア事務所でのインターン勤務は想定しておりません。到着時の安全ブリーフィングや中間・最終時報告以外は、「ワンヘルス・教育・官民連携を通じた参加型人獣共通感染症対策プロジェクト」（モロゴロ州）でインターン勤務をして頂きます。 ・滞在許可証取得にかかる必要書類は、派遣決定後、JICAタンザニア事務所の指示に従って速やかに提出してください。 ・深夜早朝の発着便（20時～6時）は極力避けてください。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在05
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	コートジボワール事務所		
■テーマ 養殖魚バリューチェーン開発を通じた内水面養殖再興計画プロジェクト（PREPICO2）のデータ分析業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 PREPICO2は、輸入冷凍ティラピアに対抗できる内水面養殖業を振興するための技術協力プロジェクトです。PREPICO2では、市場志向型アプローチを通じて、意欲ある養殖家の生産・販売能力の底上げを図るとともに、新生産システムの導入やサプライチェーンモデルの実証を通じて、生産、マーケティング、経営といった重点課題への包括的な支援を行っています。プロジェクトでは、これら支援の効果や課題を正確に把握するため、支援対象の養殖家から、生産・販売・経営に関連するデータを収集・分析しており、専門家の指導の下、データ分析業務を補佐するインターンが求められています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. プロジェクト対象地域における南部6州の養殖家（約600-800人）から収集した生産・販売・経営に関するデータについて、専門家の指導の下、主に集計作業を補佐する。また、未回答/エラーデータ等の整理作業やデータクリーニングをサポートする。 （※）データ収集は、アンケート調査ソフト（Kobo toolbox）を活用し、養殖組合や動物水産資源省の地方支局により実施される。 2. 上記で集計したデータの分析作業を補佐する。 ※データの集計・分析業務は基本的にアビジャン市内のプロジェクト事務所でのPC作業となる。			
■参考情報 データ収集は、年に1回（12月）実施。現場の養殖家とも接することができ、養殖開発の現場（※）も見ることができる貴重な機会。また、データ集計・分析は、仏語力がない日本の大学生・大学院生にも活躍してもらえ活動として有用。 （※）PREPICO2の対象地域であるコートジボワール南東部アビジャン州、アンデニエ・ジュアブラン州、ラ・メ州、アニェビ・ティアサ州、グラン・ボン州、南コモエ州など			
■参加（同行）可能な行事・視察等 データ集計・分析作業と並行して実施されている各種研修や会合等へも参加・同席可能。			
■受入時期・期間 2025年1月初旬から2月下旬までの1.5月間程度 上記期間内での調整可 理由：データ集計・分析作業をこの期間内に実施する必要があるため。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語力（英検準1級、TOEIC L&Rテスト785点以上）		
望ましい	Microsoft Excelのデータ分析機能が使えること		
望ましい	データ収集ツールKobotoolboxの利用経験		
■提供可能な執務環境等 □PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： 執務スペース・執務用デスク			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
少額交通費（タクシー代：滞在場所～勤務地）1,500-2,500円/往復		食費 1,500-3,000円/日 約11,000-13,000円/日	
■渡航にあたり必須となる予防接種 黄熱病			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 勤務地：PREPICO事務所又はJICA事務所が承認するアビジャン市内の滞在先ホテル 滞り場所：JICA事務所が承認するアビジャン市内のホテル（長期滞り在者向け） 標準経路：成田空港～パリ/アディスアベバ/ドバイ～アビジャン			
■備考・留意点 当国での安全な滞りのために、コートジボワール事務所から必要な安全情報（治安、災害、健康管理）提供などの支援を行います。勤務地は、基本的には、JICA事務所がある国際商業都市アビジャンとなります。到着時の安全ブリーフィングや帰国時の報告会等を開催する可能性があります。勤務地は、アビジャン市内の滞在先ホテルから車で25～30分程度のプロジェクト事務所になります。空港への送迎、アビジャン・ヤムスクロ間の移動、視察含むプロジェクト現場での移動に使用する車両は、基本的にプロジェクトが手配します。なお、滞り場所ホテルからプロジェクト事務所への移動については、車両の空き状況次第ではプロジェクトの車両を利用いただけませんが、車両に空きが無い場合はご自身でタクシーを手配いただく可能性があります（片道3,000～5,000FCFA：日本円750円～1,250円、利用時間によって変動）。物価は、現地食料・日用品を除いては、主に外国人が利用する店舗の商品は総じて東京と同等もしくはそれよりも高価です。マラリア流行地域のため、マラリア対策も必要になります。 【プロジェクト関連サイト】 （1）JICA事務所ホームページ https://www.jica.go.jp/overseas/cotedivoire/index.html （2）ODA見える化サイト（PREPICO2） https://www.jica.go.jp/oda/project/201942168/index.html （3）プロジェクトSNS（PREPICO2） https://www.facebook.com/prepico2/			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在06
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	コートジボワール事務所		
■テーマ 国産米振興プロジェクトフェーズ2（PRORIL2）のデータ分析業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 PRORIL2は、コートジボワールにおける国産米振興のための技術協力プロジェクトです。PRORIL2では、輸入米に対抗できるパンカブルな（収益性がある）国産米サプライチェーンを構築することを目的に、国産米を扱う中小の流通業者とそのサプライチェーン関係者（精米業者や生産者、農業機械サービスプロバイダー）に対して、金融アクセス、機械化、種子生産、収穫後処理、サプライチェーン構築といった、国産米の安定供給と品質向上を促すために必要な重点課題への包括的な支援・技術協力を行っています。プロジェクトでは、これら支援の効果や課題を正確に把握するため、支援対象の流通業者、精米業者、生産者、農業機械サービスプロバイダーから、例えば生産高の推移など、生産・販売・経営に関連するデータを収集・分析しており、専門家の指導の下、これらのデータ分析業務を補佐するインターンが求められています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. プロジェクトが支援対象とする流通業者（約8-9社）、精米業者（約10社）、生産者（約1500人）、そして農業機械サービスプロバイダー（約10社）から収集する生産・販売・経営等に関するデータについて、専門家の指導の下、主に集計作業を補佐するほか、一部データ収集業務も補佐する。また、未回答/エラーデータ等の取り直し作業やデータクリーニングについてもサポートする。 （※）データ収集作業は、アンケート調査ソフト（Kobo toolbox）を活用し、流通業者、精米業者、農業機械サービスプロバイダーについてはプロジェクト専門家及びC/Pが実施、生産者に対しては、生産者グループ毎にアンケート要員を雇上して実施。 2. 上記で集計したデータについて、専門家とC/Pによる分析作業を補佐する。			
■参考情報 データ収集は、年に1回（12月～1月）に実施。生産者や精米・流通業者等とも現場で接することができ、農業開発の現場を見ることができ貴重な機会。また、データ集計・分析は、コートジボワールの公用語である仏語能力に自信がない方でも活躍いただくことが可能。			
■参加（同行）可能な行事・視察等 データ集計・分析作業と並行して実施されている生産者や精米・流通業者、農業機械サービスプロバイダー等への研修や、これらサプライチェーン関係者を集めた会合等へも参加・同席可能。			
■受入時期・期間 2025年1月初旬から2月下旬までの1.5月間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語力（英検準1級、TOEIC L&Rテスト785点以上）		
望ましい	仏語力（DELTA A2以上）		
望ましい	Microsoft Excelのデータ分析機能やデータ収集ツールKobotoolboxの利用経験		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： 執務スペース・執務用デスク、モバイルWi-Fiルーター			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
ヤムスクロ：1,500-2,500円/日 アビジャン：1,500-3,000円/日		ヤムスクロ：4,000-8,000円/泊 アビジャン：10,000-14,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 黄熱病			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所：JICA事務所が承認するヤムスクロ市内のホテル（又はアパート） 滞在所（到着・出国時）：JICA事務所が承認するアビジャン市内のホテル 標準経路：成田空港～パリ/アディスマベバ/ドバイ～アビジャン			
■備考・留意点 当国での安全な滞在のために、コートジボワール事務所から必要な安全情報（治安、災害、健康管理）提供などの支援を行います。到着時と帰国時にJICA事務所がある国際商業都市アビジャンに1、2日ほど滞在いただき、着任時ブリーフィングや帰国時報告会などの開催を考えております。勤務地は、アビジャンから内陸部に250キロほど（車で約3時間）の首都ヤムスクロのプロジェクト事務所になります。空港への送迎、アビジャン・ヤムスクロ間の移動、視察含むプロジェクト現場での移動に使用する車両は、基本的にプロジェクトが手配します。物価は、現地食料・日用品以外で、主に外国人が利用する商品は総じて東京と同等もしくはそれよりも高価です。マラリア流行地域のため、マラリア対策も必要になります。 【プロジェクト関連サイト】 （1）JICA事務所ホームページ https://www.jica.go.jp/overseas/cotedivoire/index.html （2）ODA見える化サイト（PRORIL2） https://www.jica.go.jp/oda/project/1900342/index.html （3）プロジェクトチームFacebook https://www.facebook.com/PRORIL2/			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在07
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	セネガル事務所		
■テーマ セネガル事務所保健セクター事業運営補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 セネガルの保健指標は、サブサハラ・アフリカや低所得国の平均と比較すると良好であるものの、持続可能な開発目標（SDGs）の目標値からは依然として大きな隔りがある。 かかる状況下、セネガルでは大統領主導のもと SDGs のひとつであるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に向けた取り組みが進められている。「国家保健社会開発計画（PNDS）2019-2028」において、「保健セクターにおける財政・ガバナンスおよび社会保障の強化」、「保健医療・社会サービスの提供の発展」、「社会保障の強化」の3つの優先項目を掲げ優先的に取り組んでいる。 これに対してJICAは、保健分野において技術協力5件、無償資金協力3件、有償資金協力1件、個別専門家2件を実施し、専門家は約25名が従事。JICAセネガル事務所の「日本の保健ODA運営委員会」（合同JCC）を半期に一度実施、事務所と専門家との四半期会合の実施等、関係者が一枚岩となりセネガル保健セクターに貢献するというビジョンの浸透に努めている。			
■具体的なインターンシップ活動内容 (1) 事務所業務補佐 ・ JICAセネガル事務所で実施中の母子保健、保健人材育成、社会保障強化、非感染性疾患対策等の多様な保健分野の各案件実施にあたり、セネガル政府側（保健・社会活動省、家族連帯省、UHC庁等）との調整に必要な各種書類作成、関係者との協議への同席及び会議議事録作成、現場視察への同行等。 ・ 各種事業実施に関する広報記事作成。 ・ 無償資金協力機材案件のニーズ調査、アイデアの提案、検討。 (2) 「日本の保健ODA運営委員会」（合同調整会議）の運営補佐 ・ 保健省に派遣中の個別専門家「保健行政アドバイザー」の補佐として、「日本の保健ODA運営委員会」（合同調整会議）の事前準備、準備会合実施、当日運営、振り返り会の実施等。			
■参考情報 ・ JICAホームページ（各国における取組 セネガル）： https://www.jica.go.jp/overseas/senegal/index.html ・ JICAホームページ（セネガル事務所）： https://www.jica.go.jp/overseas/senegal/office/index.html ・ JICAセネガル事務所 Facebook： https://www.facebook.com/JICASenegalPR/ ・ ODA見える化サイト： https://www.jica.go.jp/oda/regions/africa.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 技プロ等における相手国政府との打ち合わせ、ドナー会議、プロジェクト実施場所他。			
■受入時期・期間 2025年1月から2月中までの1ヶ月間程度 上記期間外含めて調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに關し求める要件			
望ましい	公衆衛生修士号（取得見込含む）		
望ましい	フランス語B1		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： PCの貸し出しは可能ですが、スペックが低いいため、ご自身のPCをお持ちいただくことを推奨します。			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5000円/日		15000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須：黄熱病 推奨：A型肝炎、B型肝炎、破傷風、ポリオ、腸チフス、狂犬病、髄膜炎、水痘、麻疹、風疹			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 主にダカール市内。現場視察の場合、ティエス州、ジュルベル州、タンバクンダ州等の可能性があります。渡航にかかる標準航路はドバイ（アラブ首長国連邦）、パリ（フランス）経由です。治安状況については、最新の安全対策措置を参照ください。なお、地域によってはマラリアやデング熱などにも注意が必要です。			
■備考・留意点 特に無し。			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在08
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ボツワナ支所		
■テーマ JICAボツワナ支所における技術協力事業の実施支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICAボツワナ支所では、産業多角化に向けた環境整備のために、2024年度は再生可能エネルギー、観光、スタートアップを含む、中小企業支援等の分野で新規技術協力案件を開始することになりました。再生可能エネルギー分野では1月に第3回の現地調査、観光分野では2月から3月にかけて、観光資源と観光商品に関する現状調査・分析作業を行う予定です。また、ボツワナ唯一の総合大学であるボツワナ大学による日本の大学との交流への高い関心に応えるため、日本の開発経験を学ぶ機会を提供して、「日本研究」の講座設立支援を念頭に置いたプログラム「JICAチェア」を2024年3月に開催すべく準備を進めています。以上の新たに動きだす事業を円滑に実施するだけでなく、これらの活動を国内外に発信することも期待しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①再生可能エネルギーアドバイザー・観光アドバイザーの業務監理の補佐（打ち合わせ同席、記録作成、サイト視察） ②スタートアップを含む中小企業支援に関連する情報収集・分析 ③JICAチェア開催のための業務調整補佐、ボツワナ大学等関連大学の学生参加促進活動（当該大学におけるJICAチェア開催案内等の広報作業） ④技術協力事業の国内外に対する効果的な広報についての戦略案（ターゲット、方法、内容等）の策定補助 上記業務を基本として、インターンの方と協議の上決定する予定です。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/botswana/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 派遣期間に実施する各案件（再生可能エネルギー、観光アドバイザー、スタートアップ等）の打ち合わせやサイトへの出張同行、イベントへの出席等			
■受入時期・期間 2025年1月から3月までの3ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語でのコミュニケーション能力		
望ましい	広報やデザインに関する知識や関心		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		6000～6500円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 特に無し			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・ボツワナの治安情報： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsposhazardinfo_296.html#ad-image-0 ・渡航に係る標準経路：エチオピア、またはドーハ・ドバイ、ヨハネスブルグ経由			
■備考・留意点 特に無し			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2402-在09
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中東・欧州	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	エジプト事務所		
■テーマ			
ユニバーサルヘルスカバレッジ達成のためのエジプト向け保健分野協力の業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>エジプト政府は現在、ユニバーサルヘルスカバレッジの達成を目指し、Egypt's Vision 2030等の長期戦略の中でも目標として掲げている。2017年には国民皆保険制度が制定され、現在は大統領のマニフェストとしても2030年までにエジプト全県にて国民皆保険制度を導入することを目指している。JICAは円借款にて保健医療財政の安定化を支援し、保健医療の質の向上および医療保障制度の整備という2つのサブセクターでの技術協力プロジェクトを展開している。併せて、新興感染症対策および生活習慣病対策等をテーマとした7件のアフリカ・中東向けの第三国研修を主管し、アフリカ諸国向けにエジプトの経験を共有し発信している。</p> <p>今次インターンの募集では、特に上述の保健分野を中心として、JICA事務所員、現地職員との協働および業務補佐を依頼したい。また同分野におけるプロジェクト活動の支援も必要に応じて依頼する可能性がある。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>以下記載案件に関係するJICA事務所員・現地職員・JICA専門家・JICAコンサルタント業務補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> -UHCのための開発政策借款 -病院の質向上プロジェクト -患者中心ケアプロジェクト -UHI政策実施能力強化プロジェクト -UHI政策実施能力強化プロジェクト2 -第三国研修 -上記および上記以外のJICA ODA実施に関する活動 			
■参考情報			
<p>https://www.jica.go.jp/oda/project/201903635/ https://www.jica.go.jp/Resource/egypt/english/activities/activity20.html https://www.jica.go.jp/oda/project/1701764/index.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<p>時期未定ながらも滞在期間中に開催される場合 Universal Health Insurance Conference, Egyptian Health Authority Annual Conference</p>			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 3ヶ月間程度			
上記期間内での調整可	理由:		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	医学/歯学/薬学等保健医療系分野を専攻		
望ましい	英語、アラビア語の語学力を有すること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）:			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1500円/日		75USD/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
外務省、厚生労働省等推奨の予防接種を受けることをお勧めします。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
Zama IekやMaadi等の地域がJICA事務所への通勤を考えると推奨される。治安状況は外務省の情報を参照のこと。滞在中はJICAエジプトの安全管理担当より安全管理情報を共有するので順守のこと。			
■備考・留意点			
<p>エジプト生活では、Uber等のアプリライドを利用することが多くなります。 冬場は日中夜間の気温変化が大きいため体温調節できる服装等のご準備をお勧めいたします。 当地では円からの両替も可能ですが、エジプトポンドから外貨への両替には制限がありますので必要量を両替されることをお勧めします。</p>			

2024年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 開発コンサルティング企業ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2402-開コ 01	(株)アルメック	2	海外における都市交通、都市・地域開発に関するコンサルタント業務の補佐一般
2402-開コ 02	(株)アルメック	1	カンボジア国幹線道路における交通安全改善プロジェクト

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	2402-開コ01
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	あ行	募集人数（人）	2
ドロップダウンリストより選択⇒ (株)アルメック			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
海外における都市交通、都市・地域開発に関するコンサルタント業務の補佐一般		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
現在、アルメックでは「フィリピン国メトロダバオ圏包括的・持続的都市開発マスタープラン策定プロジェクト」や「モンゴル国新ゾーンモド市及び自由経済地域開発促進プロジェクト」などの複数のJICA業務を実施している。インターンシップ受け入れ予定時期である2025年1月から3月までで現地受入れ可能な案件はないものの、上記案件の国内業務や、新規JICA案件を実施予定のため、これら複数のJICA案件の国内サポートをお願いしたい。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
都市・地域開発等にかかる情報収集や情報整理、リモートによる国際会議への参加など			
■プロジェクトの参考情報			
https://www.almec.co.jp/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
未定			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 1ヵ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可		可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	特になし		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
特になし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
なし			
■備考・留意点			
特になし			

2024年度第二回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	2402-開コ02
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	あ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒	(株)アルメック		
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
カンボジア国幹線道路における交通安全改善プロジェクト		技術協カプロジェクト	
■プロジェクト概要			
カンボジアでは、経済成長に伴う交通量の増大とともに交通事故数や交通事故死傷者の増加も想定され、国道5号線をはじめとする幹線道路における道路交通安全に関する対策が喫緊の課題となっている。 これを受け、JICAは附帯の円借款を通じて改修を支援している国道5号線上において、交通安全対策の検証、交通安全対策に係る組織体制の強化・人材育成、啓発活動の促進等を行うことにより、周辺住民等の安全を確保しつつ附帯の円借款の事業目的である対象地域における輸送能力の増強及び輸送効率の改善を目指している。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
交通安全管理に関連する情報収集・整理、パイロットプロジェクトの支援、会議への参加、現地視察の他、インターン生の興味に合わせて研究テーマを設定してもらい、インターン中に研究から発表までを実施。			
■プロジェクトの参考情報			
https://jicamagazine.jica.go.jp/article/?id=202208_6f			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
現地政府との打ち合わせ、パイロットプロジェクトの視察など			
■受入時期・期間			
2025年1月から3月までの 2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：パイロットプロジェクト実施時期に合わせるため	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	「交通安全」、「行動変容」または「教育」に関する知識		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
特になし			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
滞在予定場所：Ministry of Public Works and Transport 治安状況：外務省HP参照(https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsphothazardinfo_004.html#ad-image-0) 渡航経路：日本～韓国～カンボジア（大韓航空、アジアナ航空）			
■備考・留意点			
特になし			